

第33回

ヨーロッパ・キリスト者の集い

33rd EUROPEAN-JAPANESE CHRISTIAN CONFERENCE



証と感想

主催：スイス日本語福音キリスト教会

JAPANESE EVANGELICAL CHURCH IN SWITZERLAND

27. -31. July 2016 Zavelstein(D)

テーマ：み国を待ち望む

- ・これらのことが起こり始めたなら、からだをまっすぐにし、頭を上を上げなさい。贖いが近づいたのです。
- ・そのように、これらのことが起こるのを見たら、神の国は近いと知りなさい。 ルカ21：28、31

この時代に生きる私たちは、イエス・キリストがマタイ24章、ルカ21章、マルコ13章、また多くの聖句に預言された出来事への成就の過程に生かされていると言っていいでしょう。全世界に紛争が拡がり、政治、経済、社会とあらゆる分野において動揺と不安が生じ、聖書に預言されている通りにイスラエル人が全世界から帰還し国家を再建し、福音が全世界に伝えられつつあります。この歴然たる事実にも拘わらず、多くのキリスト者はこの時代の”しるし”を見分けられずに生きています。今回の集いでは、このテーマを基に三つのことを追究したいと思います。

- 終わりの時代に生きる私たちはみ言葉によって、
- ・この時代のしるしに目を留め、それらを見分けることができるように。
 - ・キリストの再臨を覚え、み国を待ち望む信仰生活ができるように。
 - ・上を見上げ、霊的に励まされ、信仰が強められるように。
- 共に学びのときを持ち、キリスト者における希望と喜びを分かちあい、そして支え合いたいと願っています。

Conference theme Yearning for the Kingdom

"When these things begin to take place, stand up and lift up your heads, because your redemption is drawing near. Even so, when you see these things happening, you know that the kingdom of God is near." Luke 21: 28, 31

Surely we can say that we who are alive today are living through the gradual fulfilment of the events that Jesus prophesied in Matthew 24, Luke 21 and Mark 13, as well as those talked about in many other biblical prophecies. Conflicts are spreading throughout the world and there is increasing political, financial and social turmoil. Just as the Bible prophesies, Jews are returning to the land of Israel and rebuilding the nation. Alongside this, the Gospel is being proclaimed through the world. In spite of these clear facts, many Christians are unable to discern the signs of the present age. At this year's Conference we will be investigating three subjects connected with this theme. Based on Scripture, we Christians living in the end times will learn to notice and pay attention to the signs of the age, discern their meaning and live by faith in the light of Christ's second coming as we yearn for His Kingdom.

プレ大会 27. 28. July



SLIM (Servant Leaders In Ministry) Conference
によるプレ大会

第33回 ヨーロッパ
キリスト者の集い

主催：スイス日本語福音キリスト教会

27. -31. July 2016 Zavelstein, GERMANY

セッション1 7月27日(水) 19:30-21:30

「私たちはどこから来たのか」

Where did we come from?

聖句 創世記 1:26~28 Genesis 1:26-28

セッション2 7月28日(木) 9:30-11:50

「私たちはどこへ行こうとしているのか」

Where are we going?

聖句 ローマ書 8:18~21 Romans 8:18-21

講師：中川健一牧師

セッション2では質疑応答の時間を設けます。

With English and German translation



プレ大会、本大会：中川健一牧師 (ハーベスト・タイム・ミニストリーズ代表)

大阪に生まれ育つ。1970年一橋大卒。6年間のサラリーマン生活の後、米国トリニティ神学校留学、1979年に同校卒。1979年から、東京都町田市において開拓伝道開始。1986年、町田クリスチャンセンター設立、福音テレビ放送団体『ハーベスト・タイム・ミニストリーズ』を設立、テレビ伝道を展開。2010年3月、テレビ伝道終了。それ以降、『ハーベスト・タイム・ミニストリーズ』は、弟子訓練プログラムを中心とした種々の働きを展開している。著書に「日本人に贈る聖書ものがたり」(文芸社)シリーズ(全4巻)がある。イスラエルを何度も訪問し、聖書の世界を探求し続けている。HP：<http://www.harvesttime.tv/about/>

日本の霊的覚醒は聖書研究からをモットーに、ハーベスト・タイム・ミニストリーズ代表の中川牧師は、長年日本人の救いのために大衆伝道に献身され、また、日本各地に聖書塾を開き、弟子訓練のために労されてこられました。ヨーロッパにおいても2013年からは、ヨーロッパでは初めて、イタリア・ミラノにおいて聖書塾を開かれ、2015年にはSLIMの講師として招かれ、在欧邦人の救いと弟子訓練に重荷をもたれています。2016年集いのテーマ「御国を待ち望む」において、特に先生には、ヘブル的視点から、終末の時代に生きるキリスト者の最大の希望である再臨や復活、キリスト者の世界観と人生観を決めるものでありながら、あまり語られてこなかった終末論について講演していただきたいと願っています。邦人キリスト者のみならず、欧州で宣教のため奮闘して働いておられる教職者にも大きなインパクト、勇気と霊的なバックアップをいただけることと期待しています。

特別講師のプロフィール



中高科、ユース：大嶋重徳牧師 (KGK学生宣教局長・総主事) 1974年京都府生まれ。1997年からキリスト者学生会 (KGK) で学生伝道に携わる。神戸改革派神学校卒業。関東地区、北陸地区、沖縄地区、北海道地区でも、KGK主事としても奉仕。現在はキリスト者学生会総主事。著書に「おかんとボクの信仰継承」(いのちのことば社)「若者と生きる教会」(教文館)がある。15歳の娘と13歳の息子の父親。趣味は料理。

KGKのHP：[KGK キリスト者学生会](http://www.kgk.jp/)

欧州で生まれ育った若者たち、そして日本から仕事や勉学の為に欧州に来ている若者たち。互いに違うバックグラウンドを持ちながらも、共通の話題を見つけて盛り上がるキリスト者の集い中高科、ユース。ひとりひとりが神様のもとに集り、神様から平安を得るとても大切な機会でもあります。

孤独に泣く者、飢え渴いている者、本物の愛を求め探している者、どんな若者のどんな思いも受け止めて、神様の素晴らしさを伝えたい。そんな心を与えられている大嶋重徳先生をこの度は特別講師として日本からお招き致しました。多くの若者が集まるKGKの総主事であられる大嶋先生との交流から、ヨーロッパに住む若者たちが「僕らが日本へ行っても(帰国しても)共につながることのできる仲間がいる。」と感じ、そして神様とつながることは欧州だけでなく神様の限りないネットワークにつながることを知る機会となることを願っています。

講演概要



第一講演 矢吹博牧師 (フランクフルト日本語福音キリスト教会)

青年は幻を見、老人は夢を見る～終わりの日を生きる神の民～

使徒の働き2章14-21節

ペンテコステの聖霊降臨の出来事は終わりの日の始まりである。終わりの日を生きる教会は、時のしるしを見分けるために、聖霊に教えられて神のことばを聴く。そして、「主の名を呼ぶ者は、みな救われる」という希望の福音を、聖霊の助けによって力強く語り続ける。ペテロの説教の序文から「み国を待ち望む」者の在り方をともに聴きたい。

第二講演 内村伸之牧師 (ミラノ賛美教会)

主の祈り「御国が来ますように。」

ルカ11章1-4節

「主の祈り」心臓部は「御国を来たらせたまえ」ということばです。これはどういう意味なのでしょう？多くの人々はキリスト教が教えている希望とは、人がこの地上での生涯を終えたら、その靈魂は肉体を離れて「天国」に行き、そこで神とともに永遠に暮らすことであると考えます。しかし、これは聖書の教えている最終的な希望ではありません。聖書が記している、私たちの希望について、主の祈りを繙きながら明らかにしていきます。



第三講演 安藤廣之牧師 (ミュンヘン日本語キリスト教会)

主人の約束

マタイ20:1-16

皆さん良くご存知と思いますがマタイ伝20章にある、異なった時刻に雇われたにも拘らず報酬が同じであったぶどう園の例え話から、特に私達が待ち望む御国の価値観についてご一緒に考えられたらと願っています。私達は早朝から働いて報いを受けて当然の者なののでしょうか、それとも夕方5時から僅かしか働かなかったのに一日分の報酬を受けた果報者なののでしょうか。



第四講演 川井勝太郎宣教師 (ルーマニア・トランシルバニア集会)

携挙・再臨と最後の神殿

1コリント3:6-23

- 1、信仰者の歩みの故に起こる受動的出来事としての携挙：テサロニケ4:13-18、1コリント15:50-54
- 2、キリストの神の側からの介入としての再臨 黙示録19:11-16
- 3、最後の神殿についての考察、それまでの神殿の形：モーセの幕屋、ダビデの幕屋、ソロモンの神殿、ヘロデの神殿。しかし、聖書の最後で私達が見る神殿の形とは。



主日礼拝 マイヤー・マルチン牧師 (スイス日本語福音キリスト教会)

み国の実現

黙示録 19:11-16

主イエス・キリストの再臨について新旧約聖書には、多くの預言や聖句が書かれています。しかし、まとまった箇所はこの黙示録19章にしかないと言っても良いでしょう。この箇所では、イエス・キリストの勝利、栄光また、裁き主としての権限に注目しています。特に教えられるのは、1. キリストの再臨の時の7つのしるし。2. キリストの再臨の時の4つの名前。3. キリストの教会の待望と栄光。についてです。「み国を待ち望む」と言う教会の霊的態度は、主イエス・キリストの再臨を待ち望むものでなければなりません。日常生活への適用と再臨待望の信仰生活の関係についてこの箇所から学びましょう。





特別講演 中川健一牧師 (ハーベスト・タイム・ミニストリーズ代表)

「千年王国説の歴史の変遷」

終末論に関しては、あまりにも多くの見解があるため、戸惑いを覚えるというのが正直な感想ではないでしょうか。そこで今回は、以下の点を取り上げるつもりです。

1. 千年期前再臨説、千年期後再臨説、無千年王国説の内容の解説
2. 各説の歴史の変遷
3. 各説の聖書的吟味

SESSION in English on Fri. & Sat. by Dr. Daisuke Okada



The year 2017 is an important year for all true believers of Jesus Christ, since it marks the 500th year of the Protestant Reformation. God used men who were convicted, convinced, and converted by the true Gospel of

Jesus Christ to recover Christian faith. As we stand 499 years later, the Protestant churches today are having an identity crisis. Various waves of socio-cultural pressures and doctrinal confusions have caused many churches to lose sight of the truth of the Gospel. The foundation upon which the Protestantism is built upon is being shaken right in front of our eyes.

Therefore, it is imperative for all true believers to stand firm on the truth of the Gospel and to live in light of this Gospel truth. To do so, there is no better place than to look at the passages that changed the life of a man who was perhaps most influential for the reformation. In our first session, we will examine closely the declarations of Paul's confidence in the Gospel from Romans 1:16-17. These verses brought the Reformers to the realization and reclamation of the



Gospel truth. These verses tell us why Paul and many other faithful men and women spent their lives suffering for the sake of the Gospel. Our goal and desire is to see ourselves being confident and committed to this timeless and wonderful Gospel with complete confidence as we carefully understand the words of Paul.

In our second session, we will look at Romans 8:26-39, which in a conclusion of the first section of the Book of Romans. After explaining in details about the Gospel truth in the previous chapters, Paul provided his readers three unparalleled reasons why believers' glory is completely secured. For those who believe in Jesus, the truths contained in these verses are worth so much more than any earthly treasures. It reveals the work of the Triune God in the lives of the believers, produces confidence in our future, and provides biblical perspective for the present life.

Understanding this wonderful section of the Scripture will certainly change the way you view and live your lives.

Pararell to the main sessions on Friday and Saturday morning, two Bible studies with Dr. Daisuke Okada will be held for Non-Japanese speaking people. (Their will be no translation for the main sessions on Friday and Saturday mornings.)

Worship Night by the youth

7月30日(金) 19:30-21:30



カンファレンツホールにて 中高生/ユースによる賛美

賛美の夕べ

7月31日(土) 19:30-21:20



証：井野 葉由美宣教師 (北ドイツJCF)

土曜の午後 のセミナー

SATURDAY
AFTERNOON
SEMINAR

7月30日(土)の午後、
美味しいケーキとコーヒー
を堪能したあと、幾つかの
セミナーが16時から開か
れます。自由参加のセミ
ナーですので、お腹を満た
したあと、興味のある方
は、どうかご参加くださ
り、心を満たしてください。



結婚講座



「あんな夫婦になりたい
！若者たちが憧れる
夫婦のあり方」

大嶋重徳、裕香師

若い世代に信仰を継承して
いくために大切なのは、
教会の中に「あんな夫婦に
なりたい」と願うクリス
チャンカップルの存在で
す。ユース世代と教会の中
でも、聖書の語る性、恋愛
についてわかちあうため
にも、私達も聖書の語る夫
婦、結婚について学んでい
きましょう。

大嶋裕香師プロフィール

1973年東京都生まれ。宣教
団体で雑誌「恵みの雨」の編
集をし、1999年に結婚。夫
ともに年間100名から200名
の若者を家に招き、食事をと
もにする。また多数の結婚の
証人をしてきたカップルとの
学びを、「愛する二人のため
の結婚講座-我が家の小さな
食卓から-」（いのちのこと
ば社）にまとめ、2015年出
版。他にも自宅でパン教室を
開き、地域子ども達にパン
を教える。

帰国者セミナー



「ブリッジ・ビルダー
の恵み」

横山基生、好江師

在欧日本人宣教会+OMF

グローバル化が進みさらに
多くの日本人が様々な理由
で海外に住み始めていま
す。寄留者生活は、霊の目
を開かせるので、伝道の
チャンスと言えます。

しかし、帰国後日本の教
会に定着する上で様々な課
題があり、折角芽生えた種
が実を結ぶことなく枯れて
しまうことが多いのです。
ここに、ブリッジ・ビル
ダー（恵みの橋渡し役）が
必要とされています。共に
主の宣教のブリッジ・ビル
ダーになりましょう。

横山基生、好江師 プロフィール

日英米で神学を学び、1996
年から10年間英国を拠点に
在外邦人宣教に従事。現在
日本基督教同志木教会の牧
師・伝道師。基生師は在欧
日本人宣教会主事、好江師
はOMFディアスポラ・ミニ
ストリー在外邦人伝道コー
ディネーターとしても奉仕。

Bible Study



Steps of
Christian life

Daisuke Okada

President of Japan Bible
Academy

Finding out the direction of
life is important.

Understanding each step of
life provides clear direction
and aim as you live
your life. The Bible

provides such a clear
direction for everyone. In
this seminar, we will focus
on First Peter 1:22-2:10 to
see the course of life that the
Lord intends all man to live.

Profile: Dr. D.Okada

After graduating
seminary, Daisuke served
as an associate pastor at a
church in Osaka for 12
years and as an academic
dean at a training center
for 10 years. His passion
to preach and teach the
Word of God led him to
begin a new training
ministry called Japan
Bible Academy in 2013,
while he was pursuing his
doctorate degree at The
Master's Seminary. He
currently lives in Tokyo
with his wife and 4
children.

徒歩ガイドツアー

マルチリンガル
のウィリアム・
テル(パパ)が、
29日(金)の夕食
後と30日(土)の
コーヒーブレイ
クの後のフリー
タイムに、ザー
ベルシュタイン
の可愛い街を徒
歩でガイドいた
します！



証と感想

スイス日本語福音キリスト教会で
は集い終了後、証と感想文集を編
纂します。みなさま、ふるってご寄
稿ください。心からお待ちしてお
ります。 tsudoj16@gmail.com
8月15日までにおおくりください！

第33回
ヨーロッパ・キリスト者の集い

プレ大会: 2016年7月27日-28日
本大会: 2016年7月28日-31日
開催場所: ザーベルシュタイン
(シュツワルツワルト)

主催: スイス日本語福音キリスト教会

テーマ
「み国を待ち望む」

"The Lamb Coming soon"
Amens, Come, Lord Jesus

これらのことが起こり始める。自分自身を準備し、
顔を上げなさい。眼、心を清く保てなさい。
そのように、これらのことがおこるの日はある。
神の国は近いと知りなさい。
(ルカ21:28,31)

	7月27日 【水】Wed	7月28日 【木】Thu	7月29日 【金】Fri	7月30日 【土】Sat	7月31日 【日】Sun
07:00					
08:00			7:00 - 7:45 テホーションヨシ(自由参加)	7:00 - 7:45 テホーションヨシ(自由参加)	7:00 - 7:45 テホーションヨシ(自由参加)
09:00		8:00-8:45 朝食 S.B. 本会場へ移動	8:00-8:45 朝食 S.B. 本会場へ移動	8:00-8:45 朝食 S.B. 本会場へ移動	8:00-8:45 朝食 S.B. フェックアウト 本会場へ移動
10:00		9:30 - 10:50 セッション1 中川健一牧師	9:30 - 10:50 講演2 内村伸之牧師	9:30 - 10:50 講演3 安藤博之牧師	9:30 - 11:30 主日礼拝 M. マイヤー牧師
11:00			SG 分かち合い - 11:50	SG 分かち合い - 11:50	来年の集いプレゼン
12:00		12:00-13:00 昼食	12:00-13:00 昼食	12:00-13:00 昼食	12:00-13:00 昼食
13:00			写真撮影		チェックアウト
14:00		15:00- 受付開始	13:30 - 15:00 特別講演1 中川健一牧師	13:30 - 15:00 講演4 川井勝太郎宣教師	14:00頃 本会場より ・空路行きバス ・ツアーバス
15:00	15:00- 受付開始		15:20 - 16:50 特別講演2 中川健一牧師	Coffee Break.	
16:00		16:40-17:40 開会挨拶 マイヤー牧師 施設案内、参加教委紹介		結婚 講座 大崎重徳 裕香師	
17:00				16:00-17:30 特別セミナー 帰国者 セミナー 機山謙生 好江師	
18:00		18:00-19:00 夕食	18:00-19:00 夕食	18:00-19:00 夕食	18:00 ペビュンクター について 講演1~4. 特別講演、礼拝、SG 分ち合いの時間に、託児室に てお預かりします。 お迎えの時間をお守りください。
19:00			19:15-21:00 代議者 会議	自由	
20:00		19:20-20:50 子どもたちへのお話 講演1 矢吹博牧師	19:30- 21:30 Worship Night	19:30-21:20 ♪ 賛美の夕べ 証 井野葉由美宣教師	
21:00		お知らせ			S.B. : 別館 (Sommerblick, Betel) に宿泊の方
22:00		<2200 ホテル間 送迎マイクロバス 最終>			

33rd EUROPEAN-JAPANESE CHRISTIAN CONFERENCE

HOSTED BY
JAPANESE EVANGELICAL CHURCH IN SWITZERLAND
27th-31st July 2016 Zavelstein, GERMANY

WORSHIP & TESTIMONY EVENING

From 19:30 to 21:20 on Saturday.



Worship Night by the Youth
from 19:30-21:30 on Friday



Free Zavelstein Guided Walk by
William Tell(Papa) after Supper on
Fri. and after Caffee Break on Sat.



Zavelstein / Schwarzwald

Conference theme Yearning for the Kingdom

"When these things begin to take place, stand up and lift up your heads, because your redemption is drawing near. Even so, when you see these things happening, you know that the kingdom of God is near."
Luke 21: 28, 31

Surely we can say that we who are alive today are living through the gradual fulfilment of the events that Jesus prophesied in Matthew 24, Luke 21 and Mark 13, as well as those talked about in many other biblical prophecies. Conflicts are spreading throughout the world and there is increasing political, financial and social turmoil. Just as the Bible prophesies, Jews are returning to the land of Israel and rebuilding the nation. Alongside this, the Gospel is being proclaimed through the world. In spite of these clear facts, many Christians are unable to discern the signs of the present age. At this year's Conference we will be investigating three subjects connected with this theme. Based on Scripture, we Christians living in the end times will learn to notice and pay attention to the signs of the age, discern their meaning and live by faith in the light of Christ's second coming as we yearn for His Kingdom.

Pre-Conference

By SLIM (Servant Leaders In
Ministry) Conference

Session 1

27.7(Wed)

19:30-21:30

Where did we come from?

Genesis 1:26-28

Session 2

28.7(Thu)

9:30-11:50

Where are we going?

Romans 8:18-21

Rev. Kenichi Nakagawa
With English and German translation

Guest Speaker



Rev. Kenichi Nakagawa, founder and president of Harvest Time Ministries, Japan, was born in Japan in 1947. He graduated from Hitotsubashi University in Tokyo in 1970 and spent six years as a businessman until the Lord called him to full-time ministry. Rev. Nakagawa earned an M.Div. degree from Trinity Evangelical Divinity School in Deerfield, Illinois and returned to Japan in 1979 to pioneer a church in Tokyo. He began Harvest Time Ministries in 1986 and it has since become the producer of Christian television programming in Japan. He and his wife, Fumie, have four children.

Saturday afternoon seminar

Bible Study



Steps of Christian life

Daisuke Okada

President of Japan Bible
Academy

Finding out the direction of life is important. Understanding each step of life provides clear direction and aim as you live your life. The Bible provides such a clear direction for everyone. In this seminar, we will focus on First Peter 1:22-2:10 to see the course of life that the Lord intends all man to live.

Profile: Dr. D.Okada

After graduating seminary, Daisuke served as an associate pastor at a church in Osaka for 12 years and as an academic dean at a training center for 10 years. His passion to preach and teach the Word of God led him to begin a new training ministry called Japan Bible Academy in 2013, while he was pursuing his doctorate degree at The Master's Seminary. He currently lives in Tokyo with his wife and 4 children.

A summary of the Message



Session 1 Pastor Hiroshi Yabuki (Japanische Evangelische Gemeinde Frankfurt) Your young men shall see visions, and your old men dream dreams

Acts 2:14-21

The descent of the Holy Spirit at Pentecost is the beginning of the End Times. The Holy Spirit will guide the Church at the End Times to hear the word of God and distinguish the things of the Time. The Church will then powerfully proclaim the Gospel of hope; "everyone who calls on the name of the Lord will be saved" by the help of the Holy Spirit. We'd like to learn what it means to "eagerly wait for the Kingdom of God" from the preface of Peter's sermon.



Session 2 Rev. Nobuyuki Uchimura (Milan Praise Church)

The Lord`s Prayer "Your Kingdom Come"

Luke 11:1-4

The central phrase of the Lord`s prayer is "Your kingdom come." But what does this actually mean? Many people think Christianity teaches that when we die, our spirits leave our bodies and go to heaven to be with God for ever. However, this is not the final hope that the Bible gives us. I would like to look into the Lord`s prayer and make clear the Bible`s teaching on this subject.



Session 3 Rev. Hiroyuki Ando (Japanese Evangelical Church of Munich)

"The landowner`s promise"

Matthew 20 : 1 ~ 16

I am sure you all know the parable of the vineyard in Matthew 20. Although the workers were hired for different lengths of time, they all received the same wages. Are we like those who worked from early morning and felt they deserved their wages, or are we like those lucky ones who received a whole day`s wage even though they only worked from 5pm? We want to learn from this parable more about the values of the kingdom we are longing for.



Session 4 Rev. Katsutaro Kawai (Romania, Transylvanian Christian Fellowship)

The rapture: Second coming and New Jerusalem (last temple).

1 Thessalonians 4: 13-18 and 1 Corinthians

The rapture: an event (passive incident) that will happen to Christians, i.e. those who are in Christ. 1 Thessalonians 4:13-18, 1 Corinthians

Jesus` intervention as God in second coming. Revelation 19: 11-16

The study about the New Jerusalem (last temple). Successive temples up to that time: Moses` tabernacle, David`s tabernacle, Solomon`s temple and Herod`s temple. However, in regard to the appearance of the last temple, what is written at the end of the Bible?



Sunday Worship Rev. Martin Meyer (Japanese Evangelical Church of Switzerland)

Realization of the Kingdom

Revelation 19 : 11~16

We can find many prophecies about the Second Coming of Christ in both the Old and New Testaments, but Chapter 19 of the Book of Revelation probably expresses it in the clearest terms. This passage focuses on the victory and glory of Jesus Christ as well as His authority as Judge. In particular, we learn from the passage about 1. the seven signs of the Second Coming of Christ, 2. the four names of Christ used at His Second Coming, and 3. the expectation and glory of His Church. The theme of this conference, "We wait for the Kingdom to Come," expresses the spiritual attitude of the Church. To put it differently, it means "We wait for the Return of our Lord." Let us learn from the passage how to apply its message to our daily life and relate it to our spiritual life as we wait for His Return.



Special lecture on "The Historical Changes in the Doctrine of the Millennial Kingdom" by Pastor Kenichi Nakagawa of `Harvest Time Ministries`.

To be honest, there are so many different opinions about eschatology, it`s really very confusing.

This time I would like to deal with the following points:

1. The content of Pre-, Post-, and A-millennialist theories
2. Historical transitions in each theory
3. A biblical investigation of each theory

SESSION in English on Fri. & Sat. by Dr. Daisuke Okada



The year 2017 is an important year for all true believers of Jesus Christ, since it marks the 500th year of the Protestant Reformation. God used men who were convicted, convinced, and converted by the true Gospel of Jesus Christ to recover

Christian faith. As we stand 499 years later, the Protestant churches today are having an identity crisis. Various waves of socio-cultural pressures and doctrinal confusions have caused many churches to lose sight of the truth of the Gospel. The foundation upon which the Protestantism is built upon is being shaken right in front of our eyes.

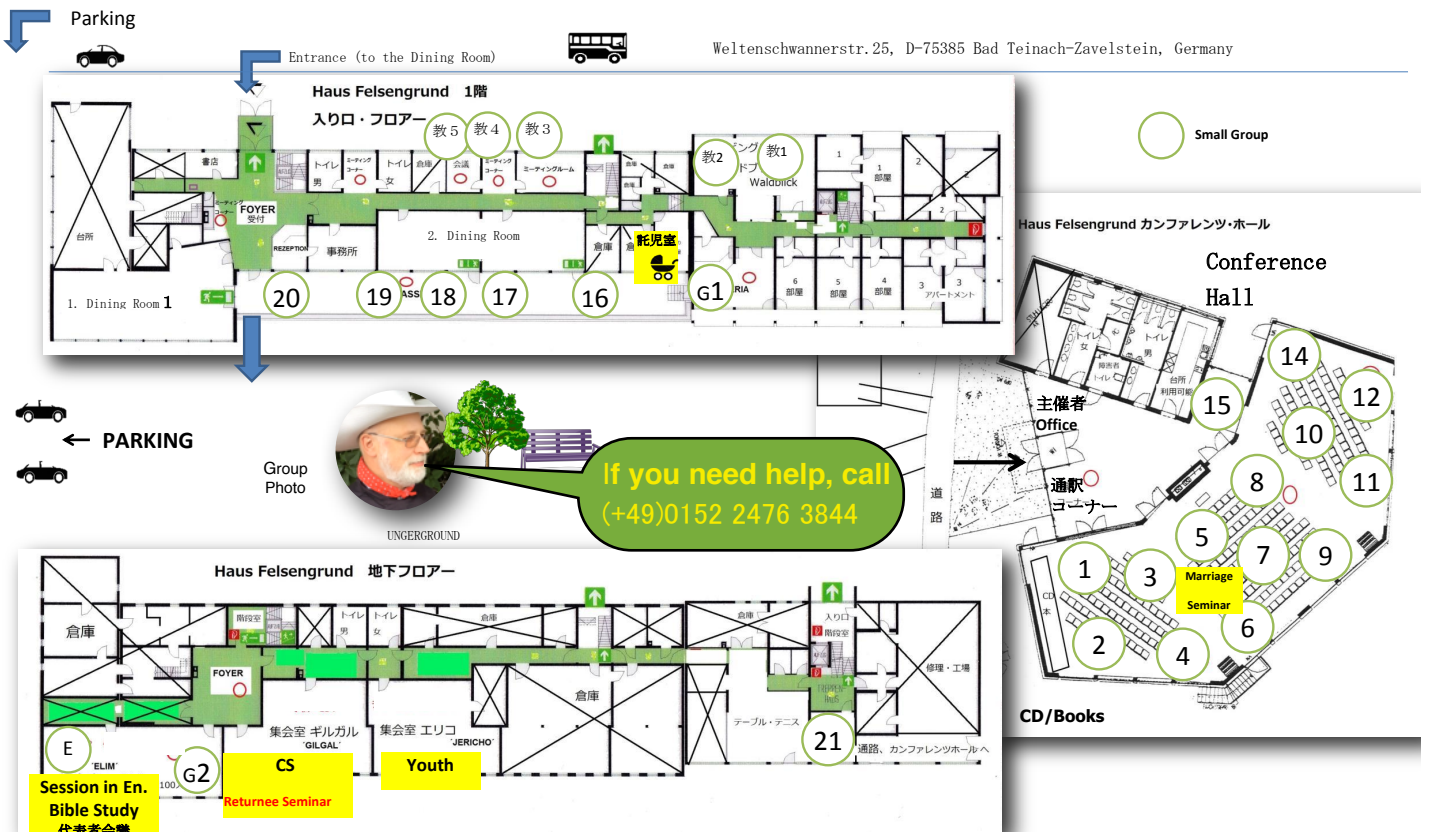


Therefore, it is imperative for all true believers to stand firm on the truth of the Gospel and to live in light of this Gospel truth. To do so, there is no better place than to look at the passages that changed the life of a man who was perhaps most influential for the reformation. In our first session, we will examine closely the declarations of Paul's confidence in the Gospel from Romans 1:16-17.

These verses brought the Reformers to the realization and reclamation of the Gospel truth. These verses tell us why Paul and many other faithful men and women spent their lives suffering for the sake of the Gospel. Our goal and desire is to see ourselves being confident and committed to this timeless and wonderful Gospel with complete confidence as we carefully understand the words of Paul.

In our second session, we will look at Romans 8:26-39, which in a conclusion of the first section of the Book of Romans. After explaining in details about the Gospel truth in the previous chapters, Paul provided his readers three unparalleled reasons why believers' glory is completely secured. For those who believe in Jesus, the truths contained in these verses are worth so much more than any earthly treasures. It reveals the work of the Triune God in the lives of the believers, produces confidence in our future, and provides biblical perspective for the present life. Understanding this wonderful section of the Scripture will certainly change the way you view and live your lives.

Pararell to the main sessions on Friday and Saturday morning, two Bible studies with Dr. Daisuke Okada will be held for Non-Japanese speaking people. (Their will be no translation for the main sessions on Friday and Saturday mornings.)



33rd European ~Japanese Conference Programme

	27.07.16 Wed	28.07.16 Thu	29.07.16 Fri	30.07.16 Sat	31.07.16 Sun
07:00			Devotions, Sharing & Prayer (optional) 7:00-7:45	Devotions, Sharing & Prayer (optional) 7:00-7:45	Devotions, Sharing & Prayer (optional) 7:00-7:45
08:00	<p>※SB: Haus Sonnenblick, Gästhaus Bethel</p> <p>8:00-8:45 Breakfast at each hotel</p> <p>※SB From the Hotels</p>	<p>8:00-8:45 Breakfast at each hotel</p> <p>※SB From the Hotels</p>	<p>8:00-8:45 Breakfast at each hotel</p> <p>※SB From the hotels</p>	<p>8:00-8:45 Breakfast at each hotel</p> <p>※SB Check Out to Haus Felsengrund</p>	<p>8:00-8:45 Breakfast at each hotel</p> <p>※SB Check Out to Haus Felsengrund</p>
09:00			<p>9:30 - 10:50 Session 2 Pastor Nobuyuki Uchimura</p> <p>Small Group -11:50</p>	<p>9:30 - 10:50 Session 3 Pastor Hiroyuki Ando</p> <p>Small Group -11:50</p>	<p>9:30 - 11:30 Sunday service Pastor Martin Meyer</p> <p>Translation</p> <p>Presentation for next year</p>
10:00					
11:00					
12:00		12:00-13:00 Lunch (Haus Felsengrund)	12:00-13:00 Lunch (Haus Felsengrund)	12:00-13:00 Lunch (Haus Felsengrund)	12:00-13:00 Lunch (Haus Felsengrund)
13:00		<p>Conference</p> <p>14:00- Reception open</p> <p>○ Reception at Haus Felsengrund OR room key at each hotel</p>	<p>Group Photo</p> <p>13:30 - 15:00 Special lecture 1 Pastor Kenichi Nakagawa</p> <p>Translation</p>	<p>13:30 - 15:00 Session 4 Pastor Katsutaro Kawai</p> <p>Translation</p> <p>Coffee Break</p> <p>Zavelstein Guided Walk</p>	<p>Check out</p> <p>14:00 - From Haus Felsengrund</p> <p>• Bus to the Airport</p> <p>• Optional tour Bus</p> <p>• Bus to Bad Teinach-Neubulach (14:00, 14:20, 14:40)</p>
14:00					
15:00	<p>Pre-Conference</p> <p>Reception open 15:00-</p> <p>○ Reception at Haus Felsengrund OR room key at each hotel</p>				
16:00		16:40-17:40 Orientation		<p>16:00-17:30 Saturday Afternoon Seminar</p> <p>Marriage Seminar</p> <p>Returnee Seminar</p> <p>Bible Study Dr. Daisuke Okada</p>	
17:00					
18:00		18:00-19:00 Supper (Haus Felsengrund)	18:00-19:00 Supper (Haus Felsengrund)	18:00-19:00 Supper (Haus Felsengrund)	18:00-19:00 Supper (Haus Felsengrund)
19:00			<p>Zavelstein Guided Walk / Free time</p> <p>19:15-21:00 Church representatives meeting</p>	<p>Free time</p> <p>19:30-21:20</p> <p>Worship & Testimony Evening</p>	
20:00		19:20-20:50 Session 1 Pastor Hiroshi Yabuki	19:30-21:30 Worship Night by the Youth		
21:00		Information			
22:00		<22:00 Last Transportation Service >			

Z A V E L S T E I N (D)

第33回

ヨーロッパ・キリスト者の集い

証と感想



ユース編

私の心に触れたこと

マイヤー・ボニー

OVMC フィンランド

今年の集いにとても感謝しています。賛美とメッセージは素晴らしく、私にとって、今回のテーマは特に重要で力づけるもので、集いも自分にとっては今までと違うものでした。以前は友達に会って一緒に過ごす時間が楽しいというので参加していましたが、今回は、神様のことをもっと知り、私に計画されていることを知りたいというのもありました。

私はこの一年間、スカイプで数人と聖書を学んできました。こんなによく彼らのことを知るようになるとは思わなかったし、このように近い友だちになれたことは素晴らしい！だから、信仰の友が全身で賛美し、最後の証し会で自分の考えをシェアしているのを見て、とても感動しました。

神様がどれだけたくさん、私たちの間に信頼関係を築きあげて下さったか、信仰において成長させて下さったかをみる事ができました。最高なのは、聖書の勉強を通して、また自分の信仰について話すことを通して、お互いを知ることができたことです。友だちが自分の弱さや傷を声にだして伝えていることが私の心にふれ、神様が本当に私たちに働いてい



て下さり、今年の集いのための備えをして下さったことがわかりました。

実行委員会のみなさん、ありがとうございました。私たちのことを真剣に考えて下さり、祈って下さいました。みなさんから神様の愛と温かさが伝わりました。また、参加された全てのユースに感謝します。ちょうど私が出発するとき、みんながランダムにボンボンと歌い始め（ぼんちゃんが私のニックネームです）、ちょっと恥ずかしかったけど、私のことを仲間とってくれていると感じました。ありがとう！今まででサイコーのばいばいソングでした！みんなのこと、主の導きと人生の祝福があるように祈っています！

愛を信じ続けること

片山英瑠

ハンブルグ日本語福音キリスト教会

今回 中高科で参加して一番印象に残ったのは、洗礼を受けてから悪い事しちゃいけないと思っていたけど、大切なのは悪い事しても、神様の自分への愛は変わらない、その愛を信じ続けるその事が大事だと言われた事です。先生の言葉はすごくわかりやすかったです。



私をこの地に遣わした神様

安味尚香

パリ・プロテスタント日本語教会

この集いに参加させて頂くまでずっと私は自分の心の弱さにひたすら落ち込んでいました。神様はどんな時でも私と共にいて下さる、ということを知っていたながらもいまち確信が持てないでいました。しかしユースの一番始めのセッションで悩んでもいいと神様が言って下さっていること、迷う時間を大切にされ、その先にイエス様が待っていて下さると大嶋先生からお話を頂いた時に、自分の中にあったもやもやが確信に変わったような気がしました。



こうでなくてはいけないと思って、でもその理想には程遠い自分に対する自己嫌悪を神様は認めてくださり、自分一人では弱くてできることが限られているけれど、神様という強い方が私を選んでくださり、共にいて

くださるんだということを再認識し、何とも言えない喜びと感謝で溢れました。

そして最終日の主日礼拝で、何故神様は私をこの地に遣わしたのかという自分の中で一番のテーマに触れられました。メッセージを通して、まだ明確な答えは見つていませんし、神様の御心を求めている段階ですが、私にしかできないことで神様に最善のことをしていこうと決意できました。何をやる時でも不安でいっぱいな私に神様が怖がらなくていい(ルカ5:10)と言って下さったように思います。

初めて参加させて頂いた集いで、こんなにもたくさんの恵みと経験ができてとても嬉しく思っています。この先また立ち止まったりする中でも、神様が共にいて下さっているということを楽しみ、神様の栄光を表すものになりたいと思いました。参加するにあたってたくさんの方に助けて頂いたこと、そうまでしてでも神様が私に参加させたかったのだなと思いました。感謝です。ありがとうございました。



他人を頼る大切さ！

トムセン・チャーリー

スイス日本語福音キリスト教会

僕は今年のヨーロッパキリスト者の集いを通して豊かに恵まれました。僕は性格的にはなんでも一人でやりたがりますが、集いの準備の中で神様に他の人を頼る大切さを改めて教わり、そしてどーんと頼れる素晴らしい人を周りに備えていただきました。言葉にも出してない祈りを答えられて感謝しています。

本大会でも特に大嶋先生のセッションを聞いて恵まれました。こうやって説明したらいいんだ！と思うほど理解しやすい聖書の全体図や、性、恋愛と結婚の話などを通して色々勉強になりました。特に最後のセッションにももらったビジョンが心に残りました。話してくれた大嶋先生、大嶋先生を招いてくれた葉子さん、そして全てを計画してくれた神様に感謝です。

今年は色々仕事があって、よく走り回ってたから、

そこまでみんなと時間を過ごせなかったけど、それでも新しく知り合った人もいて、一年ぶりに会った友達との関係を深められたことも感謝しています。来年またみんなと会えることを楽しみにしてます！



尊敬するパウロみたいに！

トムセン・カレン

スイス日本語福音キリスト教会

今年の集いでもたくさんの出会いがありました。色々な国から来た同じくイエス様を信じる人と知り合えるのはすごい恵みだと感じます。今回のユースでの大嶋先生と奥さんのゆかさんの話がとても良かったです。一つのセッションでの話でクリスチャン一人一人が大切な友達を持つべきだということを教えてくださいました。

そこで自分にはパウロみたいな先輩の友達とバルナバみたいな同世代の友達がいるとは考えたことはありますが、後輩みたいな友達、テモテ、の存在を考えていないと気づかされました。私をパウロみたいに先輩と見ている人がいるかもしれないと思うと、もっと自分の信仰と行動をちゃんとしないといけないと思いました。私が尊敬するパウロみたいに、私もちゃんとした他の人のパウロになれたらと願っています。そういうことを教えてくれる集いはとても自分を成長させてくれる場所です。また来年も行けるよう祈っています。



若者たちの成長をみて

ゲルスタ・アンドレアス

スイス日本語福音キリスト教会

今年の集いでは、本当に恵まれた時間を友と共有できました。ユース・グループの手伝いをしながら、自分もメッセージとスモール・グループで祝福され、若者たちの成長ぶりを見ることが出来て、素晴らしい時間を過ごさせていただきました。JEGの皆さんと一緒に集いの奉仕をさせていただいたことも嬉しく思っています。仕える者の間に、深い心の交わりを強く感じました。



証を伝える日が来ることを

阿部寛之

スイス日本語福音キリスト教会

今回の集いを通して、残念ながら僕は「証」を見つける事は出来ませんでした。それは僕がまだまだ未熟者で、証に対する捉え方も良く理解出来ていないのが現状だからです。更に、スイスでの生活も終わり日本に帰国するので、より一層環境は厳しくなるかと思えます。それでも、僕は諦めるつもりはありません。なぜなら、この集いを通して僕は神様を信じている事が出来たからです。信じているからこそ、僕は学び求め続けます。

そして、見つけ出した証を皆さんの前で伝える日が来る事を願っています。

私の夢

山形滯

エディンバラ日本語教会

私は、例年CSの奉仕に携わっておりますが、今年は中高ユース奉仕者としてみ言葉を若い方たちと一緒に受け取りました。今年にはKGK総主事の大嶋 重徳先生が中高ユースのために全メッセージを取り次いでくださいました。以前から大嶋先生のお名前を伺っていたので、集いが始まる前からどのようなメッセージを受け取ることができるのか、とてもわくわくしていましたが、メッセージ概要が奉仕者に公開された時は、きっとこれは素晴らしいプログラムになると確信がありました。どのセッションも素晴らしくメッセージ後のスモールグループで中学生4人とメッセージを聞き、食事の交わりをシェアし合うのが本当に喜びでした。



集い中、6回のメッセージがありましたが、私の心に一番大きな印象を残したのはそれは弱さを知る神と題して、ルカ5.1-11からのメッセージでした。一晩中魚を取ることができなかったペテロでしたが、深みに漕ぎ出して網をおろしなさいという主の指示に素直に従ったところ舟が沈むほどの魚を取ることができました。ペテロは主のきよさと自分の罪深さの対比に気が付き恐れひれ伏します。主はこわがらなくてもよい、これからあなたは人間を取る漁師になると話され、ペテロをはじめヤコブとヨハネも主に従ったという、とても心に残る箇所です。

大嶋先生は、なぜ奉仕者が大変なことを大変と思わずに一生懸命にこの集いのために働くのか、それは網

を開けて中にいる魚を見る恵みを奉仕者は知っているからだと言われました。今回私がリードしたスモールグループの中学生たち4人のうち、2人を私は彼らが集いのCSプログラムに出ている頃から知っているのですが、会わなかった1年、2年の間に大きく成長していました。キリストに従うものとしてどのように生活すべきか、しっかり考えていて、私は彼らの意見を聞きながら、集いや日々の教会生活の中で小さな魚が大きく育っていることに感動を覚えました。そして、私はこの感動をまた味わいたくてCSや中高ユース奉仕をしているのだと思います。



奉仕者にならないと分からないことはたくさんある。奉仕することによってどれだけ自分が罪深いのか、何もできない人間なのかとわかる。しかし主は恐れないでいい、私が作り変えるとおっしゃっていると大嶋先生は話されました。事実、自分は何の能力もないと奉仕するたびに身に沁みます。しかし主はそんなことは初めから知っておられ、それでも私たちを用いてくださいます。これは本当に大きな喜びです。これからもヨーロッパに

住んでいる限りは（毎年、今年が完全帰国と言って集いで会う方には完全帰国詐欺と言われてはいます…）集いに参加し、CSや中高ユースで奉仕をし続けていくと思いますが、いつか今のCS、中高ユース世代と一緒に奉仕をして奉仕の喜びを彼らと分かち合うのが私の夢です。



信じてみたいと思うこと

デーリカンガス彩香
OVMCフィンランド

時間的スケジュールがよくできていて、フリータイムとメッセージのバランスが良く飽きっぽい自分でもついていけました。ユース向けのメッセージからは、2日目ワークショップナイトでのメッセージから、罪の話が心に迫りました。何度も何度も「このくらい、いいや」と小さな罪を重ねてしまう自分だという事に気がつかされました。

集いに来る前より自分の罪がなんだかよくわかったが、自分では罪を自分で止める力がないことを知っているけれどこれから何をどうしていいのかわからない。過去に数回、SLIMや集いに参加したけれど、今回一番「信じてみたい」と思うことができた。最後にユースの仲間から、集いの後の自分の生活が戻らないように祈ってもらった。』



一人一人が神の前に出る

井野 葉由美
北ドイツJCF

今回の集いには、随所にスイスの方々のおふれる思いを感じました。ユース+中高生もそのひとつ。大嶋先生が、若者に通じる言葉で、若者の視点で語ってくださったので、「初めてメッセージに興味深く聞いた」（ああ、耳が痛いです…）「本気で信じようと思った」と、一人一人が神の前に出ることができました。

飾らずに、体当たりで神と格闘する様子は、とてもまぶしくて、大人も見習いたいです。最終日に、今村葉子さんが涙ながらに語ってくださった「ユースのみんなの、この輝いている顔が見たかった！」という言葉が印象的でした。彼らが今回つかんだものを、今置かれている場で、続けて成長させてほしいと願います。



クリスチャンとして自立する

西岡綾乃

同盟福音大山田キリスト教会

まず初めに、ギリギリの申し込みにもかかわらず快く受け入れてくださったスイス日本語キリスト教会の運営スタッフの皆様、本当にありがとうございました。恵みにあふれた素晴らしい3日間でした。参加できたことを本当に感謝します。

私は初めての参加で、少し緊張していたのですが、周りの皆様は温かく迎え入れてくれて本当に感謝しています。ユースでは信仰の友を作ることができました。神様が与えてくれたこの交友関係を大切にしていきたいです。大嶋先生のお話はどれも胸に響きました。その後のスモールグループでの分かち合いで、大嶋先生のセッションをより深い視点で考えることがで

きたのも、とても良かったです。自分にはなかった視点をもほかの方々から吸収できました。改めて神様の深い憐れみと愛を理解することができました。神様ありがとうございます。そして、自分自身の罪をさらに自覚し、神様にそれを受け渡すことができることも本当に感謝です。

今回集いに参加して感じた事（自分への課題）は、一人のクリスチャンとして自立することです。神様と自分の深い関係を築き、神様に頼ること。そしてみことばに聞き従い、聖書のもの考え方に自分を近づけることです。自分がいかに他人を価値基準に置いたり人と比べがちであったか、また自己中心であったかを反省し、まず第一に神様に重きを置くことを改めて学びました。

これからも神様を見上げて、生活を共に神様と送れることの喜びをもって歩んでいきたいです。神様の祝福が豊かにありますように



この夏は、素晴らしい奉仕の機会をお与えくださって、ありがとうございました。ヨーロッパの、とりわけスイスのユース達の活躍と、まっすぐに主に応答する姿は本当に励まされ、恵まれた時となりました。

大嶋重徳・裕香

信仰が成長しています

ピプワース・トーマス (JCFロンドン)

集いに行く前は神様に近づきたかったけど、どうやってするかわからなかった。

だけど神様はいろいろのはたらきをして、かんぺきなタイミングでぜんぶをあわせたりしてくれて、さいきん本当にしんこうがせいちょうしていると思います。

中高生&ユースのオーガナイズを 担当させて頂いて

今村葉子

スイス日本語福音キリスト教会

今年の集いでは、中高生とユースは共に同じメッセージを聴き、賛美し、証し、そして多に遊びました。CSから中高科に上がってきた人、今回はじめて集いに参加した人、集い常連の人、集会に来て強引にユースに誘われた人など、参加者は合計34名（スタッフを合わせると47名）になりました。参加者の年齢は12歳～27歳まで、人数もジェネレーションの幅もとても大きいものになりました。それゆえにあらゆる面でプログラムの遂行は大変だろうと思っていましたが、始まってみると非常にまとまったものとなりました。プログラムがまとまったものとなった要因の一つにメッセージの力があったと思います。

この度、日本からお招きした大嶋重徳先生はKKG（キリスト者学生会）の総主事であられるので、もちろん若者の心を良くご存知で、若者の心に届く言葉を追求して止まない方です。だからお話が上手いのは当然のように思います。でもお話が上手いだけでなく、大嶋先生は語るメッセージと行動が一致されておられるので、参加者は信頼をよせ、安心して心を開くことができ、この大会期間を過ごすことが出来たのだと思います。

セッションを通して私が感銘を受けた事は、メッセージと聴く者が共に良い効果を発揮してセッションの流れを良いものに作り上げていくような一体感が感じられたところです。セッションでは、メッセージの後に必ずレスポンスカードを参加者に配り、参加者ひとりひとりの思いを聴き、参加者の思いを受けて次のメッセージが語られるので、メッセージが一方向的なものにならず、大勢に向けて

語られているのに、同時に個人的にも語られているのです。

さらに、今大会では大嶋先生と一緒に多くの講演をされている、裕香夫人が大会に参加して下さったことによって、今まで大会で（教会で）あまり語られることのなかった「結婚」「恋愛」「性」のテーマを取り上げる事ができました。このテーマのセッションでも、クリスチャンとして、この世の価値と違う生き方をたとえた一人でも貫いて行きたい、という思いがひとりひとりの心に起こされたと思います。弱い私たちだからこそ、本当に神様の真理に生きる生き方がいかに素晴らしいのかを具体的に示して下さい。ご夫妻の姿勢に私たちはとても励まされました。

大会中、スタッフのみなさんが熱心に若者に寄り添っている姿、友が心を開いたら全身全霊で受け止める若い人たちの姿、そして朝から夜遅くまで賛美にあふれ、笑顔にあふれているみんなの姿、それらの光景に私は感動しっぱなしでした。

さて、集いが終わると、参加者はそれぞれの地に帰って行きます。いつものように、みんながある意味で「クリスチャンは私一人だけ。」という現実に戻って行きます。でも集いの最後にみんなの心に一つの決心が与えられました。それは、「ひとりぼっちじゃない。共に神様を見上げる仲間がいる。だから、離れていても励ましあおう。神様の言葉の下に集まろう。」という思いです。

集いは終わりましたが、若者たちは距離を超え、ハイテクを駆使してヨーロッパだけでなく、日本の友達を誘いながら、どんどん共に神様を讃える輪、世界を広げています。私はそんなイエス様の香りをプンプン振りまいている若者たちが大好きです！その姿にとっても励まされます。この目に彼らの姿を見させて頂いて、私の魂は神様への感謝にあふれています。全ての若者がこの世の楽しみではなく、神様の素晴らしさのゆえにその笑顔がはじけますように祈り続けます。



罪の布団を捨てて
 テーリカンガス里佳
 OVMC フィンランド

フィンランドからティーンエイジャーの子供二人と参加させてもらい、今回は特にユースに力を注いでくださっているという事で、子供達に靈的成長があるといいなと期待し、祈っておりました。

私は全スケジュール中半分はCSの奉仕に入っており、メッセージは録画と音声データで聞きました。会場で聞いたメッセージでは、ユースワークショップ礼拝のメッセージに一番心を探られました。ザーベルシュタインの散歩から帰ってきて、メッセージは半分しか聞けませんでした。この一ヶ月、自分の中に後から後から終わりなく湧き上がってくる「怒り」が、何度も何度も悔い改め、祈ってもぶり返してきましたが、メッセージの「何度も何度も繰り返す罪の布団を捨てて、立ち上がりなさい」と最後の祈りの中で主が触れてくださりました。集いの後は夏の初めにあれほど怒ったり、泣いたりしていたのは嘘のように治り、主からの恵みは本当に素晴らしいです。

他に語られたのは、ギリシア的な考え方というのが、今の社会にもそしてその社会で生きてきた自分にもまだ根強く影響を与えているのだと言う事を知る事が出来て、本当に聖書の言う価値観を理解するという事が必要だという事、聖句を文脈を無視して比喩的に捉え、自分の都合の良いように解釈したり、御言葉を濫用しないように、祈る必要があると思いました。



„僕の宝物はイエス様を知ったこと“

トムセン千香子

スイス日本語福音キリスト教会



集いで4日間、子供達と共に笑い、泣き、歌い、あっという間に時間がたちました。どの子供達もとても愛おしく、こんな子供達と出会えて時間を共有でき、本当に良かったなと思っています。これはCS担当者の特権ですね。また共に働いてくださった奉仕者の方達とも集い前の準備期間からスカイプなどで連絡をしていたせいなのか、初めて一緒に働くにもかかわらず、まるで以前からの友人の様にともに働く事が出来ました。私たちはやっぱり神様の家族なんだなあと心が温くなりました。

集いのCSの何の経験もない私が、実行委員としてCSの担当のお仕事が与えられ、何から始めていいのかも分からずにいました。そんな中、神様は矢吹先生とたくみ先生という力強い助け手を送ってくださったのです。準備する中で何度も折れそうになった私を、お二人の先生を通して神様が支えてくださいました。

主題曲の「僕の宝物はイエス様を知ったこと～イエス様と一緒に生きること～」と子供達と歌うなかで何度もイエス様への感謝の気持ちでいっぱいになり、涙が出てきました。一緒に生きてくださる、私の宝物イエス様に心から賛美と感謝をささげます。イエス様ありがとう！CSのお友達、仲間達ありがとう！





神様のご計画を垣間見る

佐々木千恵子

シュトゥットガルト日本語教会

今回集いのための多大な準備と主のためのご奉仕に心より感謝いたします。とても濃厚なパワーに満ちた集いで、帰ってから今も心の中で消化中です。今年のテーマ＊み国を待ち望む＊はとても興味深く、期待を胸に参加させていただきました。

いままであまり聞かないテーマであり、又、今の混迷する世界をみていると終末も近いのかしらと思うこともあり尚更でした。天地創造から新天新地にいたるまで、大きな神様の人類救済のご計画の流れを垣間見るような気がして感激し、その中で点のような小さな私はなにをしたらいいのかと今思っています。

別件ですが、賛美チームで斉藤のぞみさんが指揮をなさり（病から復帰した）奇跡のような情景に胸が熱くなりました。主を賛美いたします！ハレルヤ！



怒らない！神さまは心を見られるから！

平崎日女

OVMCフィンランド

心から主の御名をほめたたえます。細部に至るまで愛をもって時間と精神を砕いて準備して下さった実行委員の皆さまに感謝いたします。

私は今回の集いでCS奉仕をさせていただき、自分自身の目標を二つ設けて挑みました。それは昨年の集いで、気をつけるように言われていたのに親をなくされたお子様にそれを思い出させて泣かせるという失敗をしたからです。失敗に至るもととなったのは課題をひとりで抱えそれでいいか他のスタッフに相談しなかったこと、事前準備のつめが甘く、最初にそのことで祈ったときに浮かび計画した内容を直前に変更して、着地点を決めずにスタートしてしまったことです。

何とかなるだろうと見切りスタートを切るのは自分の悪いくせなので、今年は担当するセッションで前もってやろうとする内容を他の人に分かち合うこと、着地点と途中の流れをしっかりとつめてから話しをすることとしました。結局それが全てできたのは当日になってしまいましたが、苦手を



超えられたことは大きな恵みと喜びで、できない試練を与えずひとつずつステップごとに成長させて下さる主に感謝です。

最終日のCSメッセージで佐々木先生がマタイのタラントの話をととてもわかりやすくして下さいましたが、すごく頑張ったけど一つだけ預かったタラントを増やせなかった時、または5つ預かって増やそうとがんばったけど、二つに減らしてしまったとき、神さまは怒るだろうか？との問いかけに、皆が、怒らない！神さまは心を見られるから！と応えているのを聞いて涙がとまらず、子ども達にみられないよう他の場所にしばらく隠れる必要がありました。なんと寛容で忍耐深い天のお父さんを私たちは持っていることか、その愛に応え、弟子として働けるよう成長していきたいと思います。

また、限られた時間ではありますが、イッピーの紹介を通して多くの方々とお話をする機会も得ました。これからヨーロッパや日本に神さまがどのように働かれるのかと思うと期待でわくわくします。人と積極的に交わるのが過去の痛手もあり実は苦手な自分ですが、主のご計画のうちにあって変えられ（本来の姿にもどり？）、全てを委ねていきたいと思います。ハレルヤ！

み国の意味

M.F.

バルセロナ聖書を読む会

私はこの7月の集いに行くことを決めた4ヶ月前から、集いに行くことを心から楽しみにしていました。去年初めて参加したプラハの集いで非常に感銘を受けたので、今年も期待していました。その期待通り、今年の集いもまた祝福が多いものでヨーロッパ各地に住む日本人クリスチャンと素晴らしいひと時を過ごす事ができました。

私は集いに行く前々から今年のテーマ「御国を待ち望む」の意味を考えていましたが、まだ聖書朗読が浅いせいとかその意味がよくわかっていませんでした。しかし集いに参加して数々の牧師先生の講演を聞くうちにだんだ



んとその意味がわかってきました。今では自分なりに解釈し納得するまでになりました。

またスモールグループでは年齢も国籍もクリスチャン歴も異なる6人で、「御国を待ち望む」をテーマに活発な意見交換を行い、さらに掘り下げて聖書を読み込み、

自分の視野を広げ知識を深めてくれ、意義深いものでした。

ヨーロッパにこんなにも信仰深い仲間が沢山いるということは私を元気付けてくれます。特に日頃6、7人の家庭集会で小さいながらも賛美、バイブルスタディーをしている私は、この集いでこんなに多くの真摯で熱心なクリスチャンと賛美を共に捧げた時は感動して鳥肌が立ちました。この素晴らしい貴重な出会いと、またその地へ行くことを可能にして

くれた天のお父様に感謝し、これからも聖霊の働き、主の愛を感じながら神様と共に歩んでいきたいと思いません。

主のみ旨に沿って歩きつつ

T.M.

ケルン・ボン日本語キリスト教会



私にとっては、どの講演も素晴らしい内容で励まされました。朝のデボーションでは、その方法や、聖書の読み方、どうゆう所に心を留めるか等、具体的に教えていただきました。期待していた中川先生の特別講演のテーマ「千年王国」私が受けた三回の講義の内、第一回は久しぶりに大勢の人達に会ったせいか集中出来ず、内容がよくつかめませんでした。

そして二回目、三回目と重ねる内に、アウトラインの小冊子の助けもあって、少しずつ自分の頭の中でその歴史の変遷を整理理解出来るようになってきました。更に、三回の講演で得られた知識もあったせいか、集い後、中川先生のプレ大会の講義をビデオにて非常に楽しんで聞き、見る事ができました。私の残された日々の中に、千年王国説を解説していただき、歴史、聖書哲学をこの様な私にもちょっぴり味あわせていただき、ありがとうございました。これからも、主のみ旨に沿って歩きつつ、み國を待ち望みたいと思います。



手の届かない所に

安藤廣之

ミュンヘン日本語キリスト教会

今回の集いはスイス日本語福音キリスト教会の兄弟姉妹の献身的な御奉仕が大会全体に大きな祝福をもたらしたと思います。

各部署にスイス日本語福音キリスト教会の方々が責任者として配置され、集いとしての安定感を感じました。心から感謝致します。中川先生の大変貴重な講演と大嶋先生ご夫妻によるユースと中高科でのご奉仕、岡田先生による英語の集いは今回の大きな特徴であり、一つの教会だけでは「手の届かない所」を一時的にでも満たして下さった様に思います。

テーマは当初はやや難しい、、と言う印象も持ちましたが、私達の信仰生活、救いの理解に欠かす事の出来ない事柄であると改めて示されました。

一つだけ欲を言えば千年の間「王として治める」「キリストと共に裁く」ことがどうなるのかについても聞きたかったと思います。尚、私もマイヤー先生の勧めに習って、毎週1回は黙示録の通読を続けたいと思われています。

The Reasons why I attend the Tsudoi every year
 Kjell Arne Brunn
 Oslo JCF

My name is Kjell Arne Brunn from Oslo JCF, Norway and I am the husband of Mayumi Igarashi. This was the sixth time I attended the Tsudoi and I've got to know quite a few other attenders by now. My wife suggested I write this feedback for the conference.

(To give you a little background information, I come from Nesodden, a peninsular in the south of Oslo. My parents became Christians through the Norwegian Pentecostal church and I also believed in Jesus in my teens. Until I married my wife, I had absolutely no connection with Japan.)

I can still remember my first Conference (Tsudoi) in 2011. I had heard of it from my wife, but - to be honest - I was still a little nervous about attending. However, I was happy when old friends of my wife



spoke with me, and surprised at how many Japanese Christians there are in Europe.

As you all know, unfortunately I cannot understand Japanese. Even my wife asked me why I attend the Conference each year! The first reason is that I learn so much from the seminars.

The language *is* a handicap, but with outlines in English or other languages, or with translation by my wife or other people, I am still able to follow the content of the seminars and learn from them. Even though my English is not very good, I can still enjoy fellowship with many Japanese Christians, which makes me very happy. Some of the melodies of the praise songs are the

same as in Norwegian and so I can worship along with everyone else.

I loved the atmosphere of this year's Conference so much. The more I meet the other attenders, the closer I feel we become. I hope to attend again next

私が毎年集いに参加している理由
 ヒェル・アーネ (ヒラーネ) ブルーン
 オスロJCF

ノルウェー、オスロJCFから参加のヒェルアーネ・ブルーンと申します。五十嵐真弓の夫です。今回は6回目の参加となり、これまでたくさんの皆さんと顔見知りになりました。この感想文は妻にすすめられ、書いています。

(バックグラウンドを短く書きますが、オスロの南にある半島、ネーソーデン出身です。両親がペンテコステ派の地元の教会に導かれキリストチャンになった後、私も十代の時、イエス様を受け入れました。結婚するまで、日本とのつながりは全くありませんでした。)

初めての集い(2011年)のことは今でもよく覚えています。妻から話は聞いていましたが、正直、緊張していました。妻を昔から知っている方などが話しかけてくださり嬉しく思いました。ま



た、日本人クリスチャンがこんなにたくさんヨーロッパにいるということも驚きでした。

みなさんご存じのとおり、私は残念ながら日本語がわかりません。妻にも、それでもどうして毎年参加しているのか、と聞かれます。まず、セミナーがとて

も勉強になります。言葉のハンデはありますが、英語などに訳されたアウトラインと妻やほかの方々の翻訳で内容を学ぶことができます。それから、日本人クリスチャンの皆さんとの交わりも英語があまり得意ではないのですが、とても楽しく、嬉しく思います。賛美も、メロディーが同じものがノルウェーの讃美歌にあるので、心の中で皆さんと一緒に賛美をささげています。

この集いの雰囲気がとても好きになりました。また、みなさんに何度もお会いするうちに、仲間に入れていただいているという感じがします。来年、再来年と、また参加していきたいです。どうぞよろしくお祈りします。(日本語訳・五十嵐真弓)



何よりの祝福

中川健一

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ



今年のヨーロッパキリスト者の集いは、スイス日本語福音キリスト教会が幹事役となり、「み国を待ち望む」というテーマで開催されました。私と家内は、成田-アムステルダム-

シュトゥットガルトという経路で飛びました。キャンプ会場は、シュトゥットガルト郊外のザーベルスタインという小さな町にある修養会施設でした。

北海道を思わせるような風景、涼しい気候、ヘルシーな食事などに、すっかり癒されました。ヨーロッパのクリスチャンの皆さんとの交流は、何よりの祝福でした。多くの方が「メッセージ・ステーション」を聴いてくださるのを知り、主に感謝しました。私は、テーマに沿って、プレ大会で2回、本大会で2回、合計4回のメッセージを語らせていただきました。内容は、終末論、特に再臨と千年王国に関するものでした。終末論に関する興味が、世界的に広がってきていると感じました。ヨーロッパでお世話になった皆様、ありがとうございました。（中川牧師のメルマガ・今週の視点から抜粋）

時は本当に迫っている

塩見夫美子

工藤篤子ワークショップ・ミニストリー

この度のキリスト者の集いに参加する恵みを与えられましたこと、本当に感謝いたします。すばらしい自然の中で、ゆっくりと参加者達と共に神様を思い、感じ、そして多くの学びが出来ました事は、なにより神様のお導きであったと深く思っております。日本から参加をゆるされましたことも、神様からの贈り物のように感じております。

マイヤー牧師はじめ、スタッフの皆様のご苦勞は大変であったと思います。滞在ホテルも心地よく、食事、スイーツはとっても美味しい！そして何より環境がとても良かったです。本当にありがとうございました。

この度のテーマでありました、御国を待ち望む、たくさんのことを学びました。時は本当に迫っているのだと実感し、日々聖書の言葉をしっかりと読み、歩いていきたいと思いました。集いは、本当にすばらしいですね。普段の信仰生活からは学べない多くのことを学ぶことができます。そして成長できる場であると感じます。これからも、集いが祝せられ続けていかれますように願っています。本当にありがとうございました。



御国の基準を身につけたい

Fredrich 村上希與子

北ドイツJCF

第33回ヨーロッパキリスト者の集いに参加することができて、主に心より感謝しています。

4歳からCSのグループに参加できる、ということで、4歳5カ月の孫を連れていくことにしました。家族から離れ、祖父母に連れられての旅行、など初めてづくしです。しかも往路夜行列車泊。健康が守られるように、現地で事故などが起こらないように、と毎日お祈りして出かけました。

心配をよそに、孫は、CSに毎日参加できました。賛美のタペも一緒に参加できました。彼は、ほとんど印象などを語りませんが、神様とお出



いできたようです。帰宅後疲れたのか、少し体調を崩し、それが、治ったとき、「神様が治してくれた。」とひとこと言いました。CSの先生方によくお礼も言わず帰ってきてしまい、心残りです。本当にお働きに感謝します。ありがとうございました。

わたしは、講演をしっかりと聞くことが出来ました。そして、御国の基準を学びたいと心から、思いました。葡萄園での支払いのルール、などなど、人の基準では分からない、主の愛のルールを学びたいという思いが、強められました。

スイス日本語福音キリスト教会の方々、そのほかの奉仕者の方々、本当にありがとうございました。素晴らしい大会でした。来年も孫と、できれば、娘一家全員一緒に参加したいです。祈りの課題とします。

Eine erfolgreiche Arbeit

Günter Fredrich
Relling Kirche

Die 33. „Europa-Konferenz für japanische Christen“ in Zavelstein war auch für nicht japanisch sprechende Teilnehmer ein Gewinn. Als sehr hilfreich erwiesen sich dabei die Simultanübersetzungen der Vorträge über Kopfhörer ins Englische und sogar ins Deutsche. Die schriftlichen Zusammenfassungen in diesen



Sprachen erlaubten es, sich später in Ruhe und im eigenen Tempo mit den Inhalten zu beschäftigen. Vielen Dank den Organisatoren dieser Konferenz für ihre erfolgreiche Arbeit!

Zavelsteinで開催された第33回「ヨーロッパキリスト者の集い」は、日本語を話さない参加者にとっても、有意義な会でした。とても助けになったのは、講演の英語、ドイツ語の同時通訳がイヤホンで聞けたことでした。又、講演内容の概要がプリントで用意されていて、後で、ゆっくり自分のペースで読むことができ、理解に専念できることは、よかったです。この集会を成功に導いた組織委員の皆さん、ありがとうございました。

クリスチャン人生の目的

中山勝也

ウィーン日本語キリスト教会

今回は緑豊かな自然の中で、心も体もリフレッシュできました。多忙な日常の中で本来のクリスチャン人生の目的が置き去りになりがちでしたが、み国を待ち望むというテーマを通して再度じっくり考えることができ良かったです。

ベビーシッターの奉仕を初めてさせて頂きました。そのような中でも無事に終えることができ感謝でした。

『み国を待ち望む』とは

中山雅子

ウィーン日本語キリスト教会

今回の『み国を待ち望む』とのテーマで集中して講演を聞くのは初めてで、様々な先生方により色々な角度から教えていただく機会が与えられ

ても感謝でした。

み国を待ち望む者とは、日々神の言葉である聖書に耳を傾け、福音を伝える者であること。マルコの福音書20章1～16節からは、天のみ国は神様の招きにより入るところで、恵みにより救われたことを謙遜に受け止め、感謝と賛美を絶やさない者でありたい。

また、天のみ国とは神様の主権的な報いのあるところでもあり、人と比べてではなく神様と自分の関係が重要で、自分に与えられた恵みをどう受け取るかが大切であること。

イエス様に会うためにイエス様ご自身を待つことがみ国を待ち望むことでもあるなど多くのことを学ばせていただきました。今回教えていただいたことを心に留めつつ主を待ち望む者としてひとときひとときを生きていけたらと思えました。



溢れる恵みと祝福

ヘス明美

スイス日本語福音キリスト教会

スイス日本語教会主催としてのキリスト者の集いは、10年ぶりとなりました。10年前私は中高科のアシスタントをしましたが、今回は託児係を担当させていただきました。ベビーや幼児を連れて集いに来て下さる方々にも、是非少しでも御言葉を聞いて欲しいと言う一心でベビーシッターを依頼し、時には自分も加わり、子ども達のお世話をさせていただきました。ベビーシッターとしてご奉仕して下さった方々一人一人に感謝申し上げます。子どもも大人も集いへ導いて下さった神様は、確かに力強く働いて、私達に溢れる恵みと祝福を与えて下さったのを感じました。沢山の素晴らしい交わりと学びが与えられた事も感謝します。各先生方が語られたように、御言葉に固く立って、御国を待ち望みつつ、これからも歩んで行けたらと思います。参加者の皆様、実行委員の皆さん、共にお世話になり有難うございました。



何故み国を待ち望むのか

富永重厚

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会

スイス日本語福音キリスト教会が発表した本大会のテーマ「み国を待ち望む」を聞いた時、私はこのヨーロッパキリスト者の集いでこのテーマが取り上げられることに深い感慨を覚えました。「み国を待ち望む」とは主イエス・キリストの「再臨」を待ち望むものであり「終末論」でもあります。私たちは聖書のみ言葉を通して「世の終わりの日」がくることは知っています。しかしこのテーマを真向から取り上げることは余り多くはありません。

イエス・キリストの十字架による私たちの罪の贖いについてはいつも語られますが、「終末」と「再臨」についてはあまり語られないようです。従ってこのテーマを掲げた今回の集いには驚きと深い敬意を覚えると共に、このようなテーマでどれ程の人達が来て下さるのかとの不安を感じたのも事実です。しかし、結果は素晴らしいことに280名余の参加者が与えられました。

何故これほど多くの方が参加されたのでしょうか？このテーマがまさに今私たちに必要なテーマであったからではないでしょうか。

祖国日本での2011年3月11日の東日本大震災や今回の熊本の大地震、私たちが現在生活しているフランスでの度重なるテロや欧州を揺るがせている難民問題を前にして、私たちクリスチャンは何故神はこのようなことを許されるのかと信仰を揺すぶられています。聖書を通してそれでも「主権は神にある」と慰めを得るものの、私たちは余りにも厳しい現実の前に立ちすくんでしまいます。信仰を持って何になるのかと問うてしまいます。

今回集いにおいて「み国を待ち望む」とのテーマの下、特別講師の中川健一牧師はプレ大会に於いて、聖書は人類はどこから来て、何故今生きており、どこに行こうとしているのかに明確に答えており、再臨を論ずるこ

とは神の人類救済のご計画の全貌を理解することだと語られました。そして本大会では千年王国説の歴史の変遷につき明解且つ丁寧な説明をして下さり、神は主権を持って人類の歴史を導いておられ、私たちクリスチャンはキリストの再臨を待ち望む生活を忠実に続けなければならないと教えて下さいました。

ヨーロッパの各教会の牧師方による恵み溢れる講話により「み国を待ち望む」ことの意味が更に深く探られた後、最終日の聖日礼拝において主催教会として、マイヤー・マルチン牧師は黙示録19章11-16節から私たちの信じる主とはどのようなお方であり、キリストの再臨はどのようにして実現するのかをより具体的に語って下さいました。そして私たちは「私を愛して下さいる主ご自身との出会いを待ち望む」者でありそのような確信を持って毎日過ごす大切さを語って下さいました。もし私たちがこのことに確信が持てない時はみ言葉（聖書）にすがりつくとの言葉で締めくくられたことは非常に印象深いことでした。



このようにして今回の集いは私たちの歴史哲学を深く探って下さり、歴史の流れの中に自分を位置づけるという新たな目を開かせて下さいました。目の前に繰り広げられている現実をクリスチャンとしてどう捉え、どう理解していくかにつき明確なビジョンを与えて下さいました。どうしてこのようなことがと思わざるを得ない現実の中で、イエスさまがこのように祈りなさいと教えて下さった「主の祈り」にある「み国を来させたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」と祈る意味と必要を改めて教えて頂きました。

そして何と言っても縁溢れる素晴らしい環境の中で、今までになくゆったりとしたプログラムをお考え下さり「み国を待ち望む」という根本的なテーマを選んで下さった主催教会のスイス日本語福音キリスト教会の皆様へ心から感謝を申し上げます。

本当に素晴らしい集いを有難うございます。



豊かな文化と言葉の中で育つ子供たち

島田かおる

所沢ICCS

「バイリンガル・マルチリンガル子どもネット」を通して、皆さまと貴重なお話をさせていただいたことを心から感謝しています。思いが



けない出会いもありました。神様から与えられた、国際関係の子どもたちの指導という経験を生かして、これからも、日本語を含む複数の言葉の中で生活する子どもたちとご家庭のために、少しでもお役に立てたらと願っています。何かあったら思い出してください。豊かな文化と言葉の中で育つ子供たちを応援しています。

kaoruj@tbb.t-com.ne.jp

まことのリトリート

トムセン・ハンス

スイス日本語福音キリスト教会

この集いでは皆様と素晴らしいひと時を過ごすことができました。晴天の中、緑豊かな会場で御言葉を聞くための完璧な条件が私たちの為に提供され、心から感謝です。

神様の御恵によって、用意された黒い森の静かな一角はとても素晴らしいものでした。日常生活から離れた地域で、大人だけではなく、自然を楽しんでいた子供もわいわい芝生で遊んでいる姿は心いやされました。食べ物も献身的なスタッフの働きのお陰で、毎日ヘルシーな食事が用意された恵にあふれる時間でした。

英語のオックスフォード辞書に従って、リトリート”retreat”の意味の1つは全く社会から分離された場所での宗教的な出会いです。つまり「祈りと瞑想の目的のための隔離の期間や場所」です。この

定義と同じように、我々は別世間に配置された、人間の喧騒から離れて完全に分離された瞬間を楽しんできました。



お店が殆どない、過去とのつながりを持つ城の遺跡のある場所での会場でした。ザーベルシュタイン城は17世紀のファルツ戦争混乱の中、フラ

ンス軍によって破滅され、当時の国際政治の失敗、王室的な野望の敗北、人間関係の残忍な行為によった惨敗の痕跡を追う場所でした。

こういう過去の非人間的な行為を物語る名所の中で私たちは平和とキリスト者のコミュニティのための神様の導きを心に受け入れて、兄弟愛をもって、主の御名前を賛美しました。



毎日の新聞の記事には、非人道的な行動は、17世紀に限定されるものではなく、現在の世界ではよく起こるようになりました。そのような人間の行動は、神と接続を失うことにより生まれた物だと思えます。ハウスフェルゼングルンドの緑豊かなブナの木の下に集いのリトリートで、私たちは神様の御言葉に導かれました。人間社会のなかでも、神様の御力を通して素晴らしいコミュニティーができる、そういう姿を見てきました。

これからは学んできた教訓を毎日の生活へ運び、受動的ではなく、アクティブな行動で実現してみたいと思います。今は家へ戻ってきても、心の中で集いで学んだメッセージを通して素晴らしい主の城を作成したいという思いです。それは人間的な野心の為の豪華な建物ではなく、我々の主の御恵みを語る、神様を賛美するお城を築くのです。

日本から集いに参加して

谷道まや

日本基督教団阿佐ヶ谷教会

日本から初めて参加させていただきました。たくさんの講演の中では内村先生の「主の祈り」を中心に解き明かして下さったお話が一番わかりやすかったです。他のご講演は、黙示録が説く世の終わりについて、普段から考えていなかったの、戸惑うことが多かったです。特に中川先生の長時間にわたる講演は難しかったです。友人に、いろいろわからない言葉があって戸惑うと申しましたら「日本基督教団以外にもいろいろな教派が



あり、いろいろな聖書の読み方がある」と言われました。そのことを知った点がこの集いに参加した一番の収穫かもしれません。

地上での課題

Schmitt 亜弥子

ケルン・ボン日本語キリスト教会

集いの前に教会の聖研で再臨について話し合っていました。今回のテーマ<み国を待ち望む>では、各牧師から再臨について聞き初めて耳にする言葉もあり、理解するのは私には困難でした。頭で理解し、それが心の中に入るまでが私の地上での課題かなーと思いました。

神様からのメッセージ

キム・ソンシル
ロンドンJCF

私はこの度初めてキリスト者の集いに参加しました。この集いへの参加は神様の導きによってもたらされたものでした。今から証をしたいと思いません。

今回の集いで一番強く得たメッセージは、キリストを唯一の救い主と信じこれから生きていきたいということと、聖書を私の人生の指針にしたいということでした。クリスチャンとして「当たり前」に備えておかなければいけなかったこの姿勢を、恥ずかしながら、私は集いに参加するまで持ち合わせていませんでした。

私は2011年にキリスト教と出会い、2015年3月に受洗しました。しかし教会生活にも信仰生活にも、今ひとつのめりこむことのできない、日々を送ってきました。そんな生活の中、今年の春ごろ教会でヨーロッパキリスト者の集いというものがあるということを知りました。その時まで私は集いにまったく興味がありませんでしたので、最終締め切りの案内があってもまったく無関心でした。

しかし、ある日突然、「集いに行かなければいけない」という思いが与えられたのです。それは私の意志を完全に無視した「衝動」のようなものでした。誰かに誘われた訳でも、集いについてなにか問い合わせたわけでもなく、ただ行く必要があるという思いが与えられたのです。すでに締め切られていたので、もし参加を断られても仕方がないと思いましたが、しかしスイス教会事務局は受け入れてくださったのです。すごくうれしかったです。

しかし、出発直前にある問題が発生しました。ちょうど今年私はビザの切り替え時期で、パスポートをHome Officeに預けていたのですが、出発前に戻ってきているはずのパスポートが、出発

1週間前になっても戻ってこなかったのです。最悪なことに、パスポートの返却を今か今かと待っている最中に、Home Officeからは追加の資料を請求されたので、これではもう出発に間に合わないとあきらめざるを得ない状況となりました。何か他の手段で国外に出ることができないかと色々調べたりもしましたが、他に方法がないということがわかり、非常に落胆しました。

とは言いながらも、そもそもこの集いへの参加は神様が与えてくださった機会です。もしこれが本当に神様のご計画であれば、私は行くだろう、そうでなければ行かないだけのこと、とどこかにそんな思いもありました。そしてパスポートとビザが集いの出発4日前に戻ってきたのです。私が集いに行くことを、神様はご計画してくださっていたようです。



神様は私にどのようなメッセージを届けようとしてくださっているのか、これが集いに参加した私の最大の関心事でした。素晴らしい牧師先生のお話はもちろんですが、それ以上にヨーロッパ各国から集まって来たクリスチャンたちの信仰生活を垣間見たことは、私に大きな励みとなりました。

残りの人生を伝道と献金に捧げている人、舞台上で歌を歌う度サタンと取引をしているような苦痛を伴うと言っていた若いシンガー、スカイプで聖書の学びを一緒にしようと声をかけてくれた人、常に祈りの言葉にあふれた人たち。その人たちは私にクリスチャンとして生きていくことの勇気と自信を与えてくれました。と同時に、自分は聖書の学びが全く足りていないということも気づかされました。聖書あつてのクリスチャンであるという基本中の基本を、今まで私はあまり真剣にとらえていなかったようです。これが神様が私に与えてくださったメッセージでした。

長くなりました。最後に、感謝と愛に満ちた集いを企画実行してくださった実行委員会の方に、改めて心よりお礼申し上げます。ありがとうございました！



翻訳／通訳が充実した集い

彦田理矢子

エディンバラ日本語教会

スイス日本語福音キリスト教会の方々の細かい点にまで気を配られたホスピタリティに大変感銘を受けました。私は会場から離れたホテルでしたし、特に最初は何かと不便もありましたが、スイス教会の方たちが迅速にスムーズに対応してくださったおかげで、最終的には特に不満も残らず、豊かな時間を過ごすことができ感謝しております。

また、これまでよりも通訳・翻訳を本格的に充実させようとしておられたことにもとても好感を持ちましたし、ケーキバイキングなどのエクストラの楽しみも用意されていて、驚きました。何よりもスイス教会の方々の常に余裕を持って大会参加者を迎えてくださった態度に感銘を受けました。本当にお疲れ様でした！



神様からの応答を経験

クスター節子

スイス日本語福音キリスト教会

今回初めて祈りに対するかみさまからの応答を体験させて頂きました。祈りは信仰者にとって大切なこととは分かっていましたが、祈ってもすぐには聞き届けられずそのうち祈っている自分自身が忘れてしまう不謹慎な祈りしかしていませんでした。しかし今回はかみさまへのご奉仕に就いての祈りだったからでしょうか、すぐさまの応答にビックリするやら感激するやら心から讃美の声がわき上がってきました。「集い」開催期間中も朝はやくから夜遅くまで起きていても疲れ知らずに過ごせたことは感謝なことでした。またご出席下さった方々が喜びに満ちた時をお過ごし下さったのも「集い」の真ん中に主がいて下さり皆の心を一つにして下さった恵みと主に感謝いたします。

日本語での交わり

野村直彦

ベルリン・テンペルホーフ自由福音教会日本語家庭集会

集会は多くの兄弟姉妹たちと共に賛美や祈りに個人的な交わりを与えてくれ、先生方のメッセージを通して聖書の学びを得ることが出来た大変充実したひと時でした。私は初めて今回の集いに全日程で参加させて頂いたのですが、バランス良く組まれたプログラムに対して存分に堪能することが出来ました。

具体的には一日は朝のディポジションから始まり、兄弟姉妹と聖書について学び、考え、祈りがあった上でその他のプログラムに備えることが出来たことはとても充実した時間の持ち方でした。日本を離れてから時間が経っている現在において、このヨーロッパの地で多くのクリスチャンの方々と日本語での交わりの機会を持たせたことは大きな喜びとともに励みになりました。このような素晴らしい時を持たせて下さいました主に感謝します。

未来への希望に確信

二宮美香子

ベルリン・テンペルホーフ自由福音教会日本語家庭集会

ドイツの有名な黒い森・大自然の中での集会を企画されたスイス日本語福音キリスト教会の皆様のご奉仕を心から感謝いたします。リタイア後7回目の参加でした。今年はやとりあるプログラムであったのがとても良かったです。多いにリトリートさせてもらいました。と同時に「み国を待ち望む」とは、神の現実は今ここに私たちの中にある、そして、想像を絶する素晴らしい新天新地では永遠の命を与えられる。と言う未来への希望に確信を持って垣間見る事が出来たのは大きな恵みでした。

テーマに沿った各講演メッセージは豊かな学びとなりました。特に中川先生の「千年王国説の歴史の変遷」は興味深かったです。「賛美の夕べ」は神様のご臨在の中でのお証・ナレーションと賛美に心からの感謝を捧げました。最後に〈中高生&ユースによる賛美〉に参加出来なかったのは残念でしたが、主に用いられる若者たちが起されるよう祈っています。《御言葉を宣べ伝えなさい。折りが良くても悪くても励みなさい。》 第二テモテ4:2



全てが実りのひと時

佐藤真美

ミュンヘン日本語キリスト教会

今回で2度目の参加です。先生方の話や賛美は素晴らしく、クリスチャンになりたての、まだわからないことだらけの私にとって、全てが実りのひと時でした。また、私は証をしました。その後、多くの兄弟姉妹が声をかけてくださり、証についての感想を頂けたことがとても嬉しかったです。そこから交友が広がり、色々な方とお話できたことは貴重な経験でした。また、スイスの皆さんの実行委員としての機能は素晴らしく、次回の集いで参考にしたい点を多々学べました。



主への賛美を味わい尽くす

片山素子

ハンブルグ日本語福音キリスト教会

賛美の夕べの賛美が素晴らしかったです。でも、なぜ素晴らしいのか、賛美している方も聴く私たちも、修養会の学び 祈り交流の中で養われて主に整えられたから、恵の中で主への賛美を味わい尽くせたのだと思います。

スイスのみなさんの祈りとご奉仕によって素晴らしい経験ができました。ありがとうございます。。

次世代の活躍に喜ぶ

馬場晶子

ロンドンJCF

スイス日本語福音キリスト教会の皆様、そして様々なお手伝いをされた兄姉の皆様本当にご苦労さまでした。そして大変お世話になりました。今大会も素晴らしい神様の恵みと祝福の中楽しく、充実した4泊5日を過ごすことができました。そして贅沢にもそのあとのスイスを巡るオプションツアーにも参加し、集いの感動の余韻残る中、主にある兄姉とより密度の濃い、楽しい時を過ごしました。天候にも恵まれ、途中嬉しいサプライズもいっぱいありました。集いから戻り二週間が経ちましたが、あの感動を忘れないうちに御礼と共に感想を送らせていただきます。

私たちはロンドンに移り住んで20年。数えられないほど多くの集いに参加してきました。集いは我が家の歴史でもあり、それぞれに思い出が満載です。最初参加した時は主人は40代で、働き盛り。私は4人目の子育て真っ最中でした。集い参加を通して多くのママ友、祈りの友を作り、次女もヨーロッパ中にお友達ができました。家族6人全員で参加したことも何度ありましたが、そのうちに一人抜け、二人抜け、そして、家族が増えて、、、今年夫婦と日本から私の妹、昨年結婚した長女夫婦が参加しました。来年は何人が参加でしょう？



これまでは集いは一年に一度主にある兄姉との再会を楽しみにする同窓会のような感がしておりましたが、今年は少し違いました。近年若者と子供達の参加が少なくなっており、このことを憂慮しておりましたが、今年は集い実行委員会のご

配慮で、若い世代の参加が増え、中高生とユースだけのプログラムも用意されていました。これは私も長年願っていたことで、とても嬉しかったです。集い全体が活気づき、ヨー



ロッパの教会にも新しい先生方が多く赴任されていました。新しい出会いもたくさんありました。確実に欧州の教会に力が戻ってきて、将来への希望を感じることができました。私たちの世代が中心であった時代は過ぎ去り、次世代が活躍している様子を目にし、これからのヨーロッパ宣教に希望が持てることをとても嬉しく思った今回の集いでした。

我が家の子供達が集いと共に成長したように、これからは孫たちが集いに参加し、その中で友達を作り、友情を育み、互いの信仰を成長させてくれるようにというのが私の願いであり、祈りです。家族が増えるにつれて配偶者の国籍もまちまちです。今後集いも日本語、英語、ドイツ語だけでなく、中国語や、その他の通訳言語も増えていくかもしれませんね。み国を待ち望みながらそれぞれが神様から示された今日の務めを果たしつつ、来年も新しい友、新しい発見ができることを期待しております。主人には来年に備えて健康管理を厳重に命じたいと思っています。

ご準備に当たられた皆様の上に神様の多くの祝福がありますようにお祈りしております。 God bless you !

私たちの重要な使命

井上ほなみ

シンガポールJCF

まず最初に第33回ヨーロッパ・キリスト者の集いを主催して下さり、外部者である私を心よく受け入れて下さったスイス日本語福音キリスト教会の皆様にご心からお礼申し上げます。

今回シンガポールJCFより初めて集いに参加させて頂きました。300名近くの方々が集まれる定期的な集会ということで、最初は知らない方ばかりだろうと少し不安もありましたが、初めて出会ったとは思えないくらい皆さん気さくで感じがよく、すぐに溶け込むことができました。既にSLIMでお会いした兄弟姉妹との再会も大きな喜びでした。集会中は天候にも恵まれ、素晴らしい自然の中で皆さんと共に讃美し、み言葉を聞いて分かち合い、祈り合えたことは大きな祝福でした。「心が洗われる」とはこのようなことを言うのでしょうか。心から感謝致します。

今回のテーマ「御国を待ち望む」は終末論に大きく関連するテーマで、以前から関心のある分野だったのでずっと楽しみにしていました。特に、携挙や再臨に関して先生方がどのように考えられ位置づけられていらっしゃるかには大変興味がありました。全て理解できたかどうかわかりませんが、先生方のメッセージを通じて今まで漠然としか理解できていなかった重要な概念（携挙・空中再臨・地上再臨・千年王国・新天新地など）を学ぶことができたのは大きな恵みでした。

今回の講演で一つ驚いたのは、この難解なテーマに関して多くの先生方が様々な角度からメッセージされるなかで、中川先生をはじめ全ての先生方（内村先生、マイヤー先生、岡田先生、安藤先生、川井先生、矢吹先生）の御国・終末論に関する考え方にさほど違いがなかったことです。中川先生の「千年王国説の歴史的変遷」のメッセージでもありましたが、現在、多くの教会（カトリック及びプロテスタント）が比喩的解釈を施して「無千年王国説」を採用し、何の疑問もなく置換神学を教えるなか、今回のキリスト者の集いにおいては、先生方が皆ヘブライ的視点で聖書を理解され、携挙・御国・千年王国・再臨に関して類似した見解を持たれ、同じ方向を向いて聖書を理解・伝道されていることに感動を覚えました。



最初は、主催者の方々が「参加者の聖書理解の混乱を避けるために、同じ聖書感を持つ先生方を故意にお招きになったのだろう」と思っていたのですが、メッセージを聞いたりお話を伺ううちにそうでないことがわかり、神の摂理を感じました。

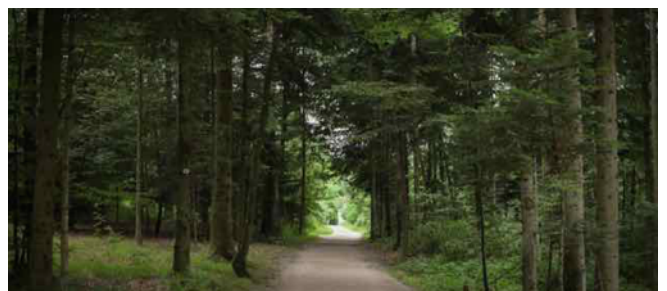
今私たちは恵みの時代に生きながらも、きわめて終末に近い時を過ごしています。この時期に、御言葉を正しく理解し、神様の目的や意図を深く知り、福音伝道に努めることは大変重要な使命だと感じています。何の障害もなくみ言葉を学べるという大きな恵みに与かっている私たちの責任は重いでしょう。



今後の私自身の課題は、頂いた恵みに満足して自己中心的な人生を送るのではなく、周りに目を向けて必要のある人には助けとなり、伝えるべき真実（み言葉・福音）を伝えていくことだと感じます。現在、教会やバイブル・スタディーで、また今回のキリスト者の集いを含む様々な集会において、み言葉を学ぶ機会が多くあります。この恵みを改めて覚えて、知りえた聖書知識（何よりも真実である福音）に自己満足して自分の中に留めておくのではなく、必要な人たちに積極的に分かち合えるようになりたいと思っています。そして、生きている最後の日まで聖書を渴望し学んでいきたいと思えます。

キリスト者の集いから2週間経った今も、集いで得た素晴らしいメッセージ、兄弟姉妹との楽しい交わり、兄弟姉妹の涙あふれる証、緑溢れるお庭で感じた心の平安と喜び、神様の偉大さを感じたブラックフォレストでの散歩など、生き活きと心によみがえってきます。既に来年の集いを楽しみにしています。

改めて、この素晴らしい機会を与えて下さった神様に、企画・主催をして下さり多くの労をとって下さったスイス日本語福音キリスト教会の皆様、多くの準備のもとメッセージをして下さった先生方に、素晴らしい讃美をして下さった皆様に、その他あらゆる目に見えない奉仕をして下さった皆様に、心からお礼を申し上げます。皆様に神様の守りと祝福と導きがあるようにお祈りしています。次回にお目にかかれるのを楽しみにしています。感謝を込めて。



英語セッションや通訳の大切さ

フェアマン 恵

ロンドンJCF

今回の集いは国際結婚をしている妻としての初めての参加で、同じ立場にあるクリスチャン姉妹の経験談やアドバイスがとても興味深く参考になりました。結婚セミナーもとても役に立ちました。思う存分日本語でみことばを聞き、祈り、語り合える集いの場、普段そういった機会のない私にとってこれからもヨーロッパキリスト者のつどいは貴重な時間となるでしょう。

プログラムは充実していて、それでも負担にならない時間割で、参加した一つ一つのセッションを満喫することができました。ロケーションも、施設も、食事とてもよかったです。夫も英語のセッションを楽しんだようです。国際結婚が増える中、日本語が母国語でない伴侶の為の英語(共通語?) セッションや通訳がこれからはもっと大切になるでしょうね。とても恵まれた集いでした。どうもありがとうございました。集いの実行委員の皆様、大変お疲れ様でした。



Good balance of free time sessions.

Adam Fairman

London JCF

I appreciate the efforts made to accommodate English-speakers such as myself. Pastor Okada was a great speaker and it was very interesting to hear what he is doing in Japan.

I thought there was a good focus on trying to support local churches as they do their work rather than trying to supplant them, which was noticeable in the little things like the name badges having the names of churches they are from. I think it's important that para-church gatherings like this are led by what church leaders think is needed so please continue this.

I thought the topic of the conference was good, even though I don't think I would subscribe to the millennial position that seemed to be generally held

by the speakers, I didn't think it was pushed too hard and was still helped by the talks.

I thought the venue worked well and enjoyed the food. Good balance of free time sessions.

私のような英語を話す者への配慮を感謝しています。岡田先生は素晴らしい話し手で、彼の日本での働きに興味を持って聞けました。

集いでは各自が所属教会が書かれた名札をつけるなど、夫々の教会を大切にしていることを伺い知ることができました。超教派の集まりで有るこのようなカンファレンスでは、主催教会主導で行われる必要があると思うので、是非今のような形で続けて欲しいものです。

テーマは良かったと思います。千年王国について講師の考えには必ずしも全面的に賛同できませんが、決してその考えを押しつけられるようなものではありませんでしたし、学ぶこともおおくありました。

集いの場所は快適でしたし、食事も楽しめ、自由時間の配分も良く考えられていました。

ありがとうございました！ アダム・フェアマン

神様の広大な愛のご計画と目的

Schwester Sohara

マリア姉妹会 : Darmstadt



「今回の集いでは、神学校で学ぶ1年間あるいはそれ以上の内容を短期間に聞いたような濃厚なものでしたが、神様のお心から生まれた広大な愛のご計画と目的を心に刻み付けられたことを感謝します。

私たちが生かされているこの時代に起こる、さまざまな出来事と暗闇の力に押しつぶされるのではなく、近い将来に現実となる聖書の真実にこそ心の目を向け、戦いと苦しみを恐れず、最愛の主イエス様の喜びと栄光のときのために、今日の小さな一日を生きなければならぬことを思わされています。

この集いのためにずっとご苦労くださったスイス日本語福音キリスト教会の兄弟姉妹が、集いのあいだも、たえず笑顔で喜びをもってご奉仕くださる姿は、み国を待ち望む兄弟姉妹のすばらしい証しでした。心から感謝します。

第33回キリスト者の集いで受けた恵み

藤原誠

仙台・八木山聖書バプテスト教会

今回のヨーロッパキリスト者の集いのテーマは「御国を待ち望む」というものであったが、このテーマに関する講演を聞く中で、私は、イエス・キリストを自分の救い主として信頼し従って行くというクリスチャンの基本的な姿勢の原点を学ばされた。

マイヤー先生は、主日礼拝において、この学びはイエス・キリストの再臨という「出来事」よりもむしろイエス・キリストご自身(の型)についての学びであることを述べられた上、「あなたは、イエス・キリストに出会うことを喜びとしていますか？」という問いを投げかけられた。



私には、この問いこそが今回の集いの中心的な問いであったように思えた。黙示録19章7節には「私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用意ができたのだから。」と書かれている。私たちは、「全てが良くなる」という希望以上に、イエス・キリストと個人的に出会うという喜びを夢見て「御国を待ち望む」のである。

そして、黙示録19章14節にある通り、私たちも真っ白なきよ麻布を着せられた「天にある軍勢」の一人として主イエス・キリストにつき従うのだとマイヤー先生は語られた。聖書の示す福音のクライマックスはイエス・キリストとの実際の再会であって、それこそが私たちが信じている神様の創造の始めからのご計画なのだ。

私は、今回の学びでそのことを意識して初めて、イエス様のことを、これまでも自分が信じてきた神様として実感を持って受け入れることができたような気がする。そして、自分が神様と関係のあるものとされているという事実がより現実的なものとして迫ってくるような感覚を覚えた。最終日の主日礼拝で受けた「神であるイエス様がおられる」という実感は、暖かく灯るろうそくの火のように、集いが終わってからも1週間ほど私の心の内に残り続けた。

また、今大会を通じて何度も繰り返し語られたことは「聖書を字義通り文字通りに読む」ということであった。特に、中川先生はプレ大会を含めた4回の講演の中で、聖書の時代背景や書かれた状況、文化を踏まえつ

つ、聖書を「文字通り、字義通りに読む」ということを何度も強調されていた。そして、「御国を待ち望む」とは聖書の言葉を文字通りに信じる結果だと話された。

「私の目の前にあるこのコーヒーは、本当にコーヒーであって、みそ汁ではない」というたとえを使って字義通りに聖書を読まないことがいかにナンセンスなことであるかを訴えられていたのが印象的であった。さらに、私は、聖書の読み方もさることながら、講師の先生方の「その聖書理解に基づいて実際にこの現実を生き抜いておられる確固たる姿」に大きな刺激を受けた。



そして同時に、もしかすると自分はこれまで、自分ありきで目標のはっきりしない信仰生活、ただ漠然と聖書の神を信じ、勝手に神を想像して生きる生活を送っていたのではないかと思わされた。本当は神様が私たちに与えて下さっている啓示は自分が思っていたよりも遥かに具体的で、それを知り、それに従うことで、私たちは目標の定まった確固たる人生を生きることができるのかもしれないと思った。

最終日の主日礼拝を終え、私がふと思わされたことは、聖書を正面から受け止めてそれを本気で学ぶことを始めなければ、クリスチャンとして自分が目指している人生、求めている人生は始まらないのかもしれないということだった。

8年前自分が聖書の神様を信じたときのこと、自分にできること・自分のすべきことは何だろうと模索しながら教会の活動に力を注いだ日々のこと、聖書を学ぶことへの衝動をずっと覚えつつも3年前にそれを先延ばしにすると決めたことなどが頭を巡った。結局のところ自分の感情や感覚に基づく

Christian-likeの人生、Christian-likeな信仰生活にはいつも釈然としない不安がつきまとう。

その中でも神様の恵みを味わうことはできるかもしれないが、私



たちにはもっと具体的にはっきりとした形で神様を知り、様々なことに確信をもって生きることの出来る特権が与えられているのだと思う。

私は今、長年模索し続けてきた自分の人生に一筋の光が見えたような気がしている。具体的な生活や将来のことを考えると人生のこの時期に聖書の学びに多大な時間を割くことには不安も大きいですが、集いで与えられた気付きとチャレンジを契機に、具体的に聖書を学ぶことを始めていきたいと思わされている。

み国を待ち望む!

パク・ジェフン

エディンバラ日本語教会

"起きよ。光を放て。あなたの光が来て、主の栄光があなたの上に輝いているからだ。"(イザヤ60:1)

神様が聖徒たちに与えてくださった素晴らしい贈り物の一つは、この世を生きながら神様のみ国を待ち望む希望だと思います。それはすべての苦しみや多くの人生の問題を乗り越えさせる力の源です。「み国を待ち望む」というテーマの下で行われた今回の修養会は、聖徒たちだけに与えられているその素晴らしい希望を、もう一度私の心の中で呼び起こしてくれました。

ただみことばを分かち合う時間だけではなく、主から来る喜びの光で輝いている兄弟姉妹たちの顔を通して、また愛に満ちた交わりや汗を流しながら集った皆のため夜遅くまで献身している奉仕者たちの態度を通して、またはスモールグループのリーダーたちの情熱を通して、その希望が私の心の中に溢れるのを強く感じました。もちろん、神様が与えられた素晴らしい自然の美しさも心に残りましたが、恵みを求めている一人一人の熱い心に何よりも心を打たれました。

私は、木金二日だけの参加で、残念ながらそれ以外のセッションに参加して交わることはできませんでしたが、その二日間だけでも神様のみ国から流れる喜びを十分に感じる事ができました。語られた主のみことばは、窓を通して降り注ぐ夏の光よりずっと私の心を熱くしてくれました。魂の目を覚ます恵みのみことばのおかげで、集われた他の参加者の方々も深い感動を与えられたことと思います。矢吹先生のメッセージのよ



うに、「あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る」(使徒の働き2:17)という奇跡を思い起こさせ、内村先生が話されたような「み国が我等の中に降りる」という感動がありました。また、中川先生のお話では、やがて到来する神様のみ国に対する希望で満ち溢れる霊的なリバイバルの現場を見る思いがしました。

この修養会で感銘を受けたもう1つのことは、すべてのプログラムが万全に準備されて皆が満足できたというよりは、むしろ足りない部分があってもそれを十分に補う愛を感じられたことでした。それを通して、修養会の意味と神様がヨーロッパ各地の教会に与えられている力を目の当たりにしたような気がして、何より嬉しく思いました。神様はこの集まりを通して、弱

い教会を強め、慰め、励ましてくださり、そして各教会が1年間主の御名と栄光のためしっかり立つ力を与えられるのだという感動で一杯になりました。

今もあの庭にあった高くてまっすぐ伸びた松の木を思い出します。素晴らしく美しい木でした。この木のように、ヨーロッパキリスト者の集いという恵みの集まりが、右にも左にも曲がることなく、ただ主だけを見仰ぎながら、主の御名と栄光とみ国のため用いられ続けることを祈ります。また、この大会のため、イエス・キリストからの愛をもって多くの参加者たちと神様のために献身してくださったスイス日本語福音キリスト教会の聖徒たちのすべての働きを、主がどうか覚えてくださいますように。感謝して。



A particular highlight

Attila Weyland

Japanese Evangelical Church Switzerland

This was the first time at Eurotsudo with my family. I enjoyed the conference in general and the many sessions from so different speakers.

The simultaneous translation into German/English via headphone was very helpful to me as I am not fluent in Japanese.



A particular highlight was the session from Mr. Okada which was given in English. Also interesting to me was the exchange with other spouses to Japanese.

Our daughter very much enjoyed the fantastic program in children school.

I think we will continue to attend the conference and I would be very glad, if the simultaneous translations will be offered also at next year's conference. Maybe even sessions in English are again possible. Thanks and kind regards

特別なハイライト
アティラ・ヴァイランド
スイス日本語福音キリスト教会

これは私たちの家族にとって初めての”集い”でした。私はこのキリスト者の集いと多くの異なった講師によるセッションを楽しみました。私は日本語がよく出来ないので、イヤホーン

を通じての同時通訳におおいに助けられました。今回の集いにおける特別なハイライトは、岡田大輔牧師による英語のセッションでした。また、私のように国際結婚をしているもの同士の意見交換と交わりは興味深いものでした。

私たちの娘もCSの魅力的なプログラムをおおいに楽しんでいました。私たちは来年の”集い”にも参加するつもりです。もし、今回のように同時通訳があり、英語のセッションもあれば、どんなに嬉しいことでしょう！感謝をこめて

私が夢だにできなかったこと
クンツ・ルート
スイス日本語福音キリスト教会

2016年のキリスト者の集いはもう過去になってしまいました。振り返ってみると「参加することができて本当に感謝です」と言うほかありません。感謝できる一つの理由は、開催場所はよく知っている地である上、あまり遠くなかったことです。

またもう一つの理由は私が卒業したスイスベルン州にあるベアテンベルグ神学校の創立者であったバッサーツーグ博士(Dr.Wasserzug)は会場であるHaus Felsengrundの創始者でもありました。集いの会場にあった読書室で、私が敬愛する先生と奥様の写真が飾ってあったのを発見して私のこころは喜びに満たされました。神様がこんなに豊かにお二人の働きを祝福して下さったことを再び感じさせられました。

実は、私はその神学校で学んでいた時、神様から「宣教師になりなさい」と、また、その後で「日本人に私(神様)の愛を伝えなさい」と言う召命を受けたのです。それからほぼ60年後、私は280人の日本人のキリスト者とともに、ヨーロッパで、すなわちこのFelsengrundで救い主イエス・キリストを賛美する機会が与えられることなど夢だにできなかったことです。



上に「一つの理由」と書きましたが、またこの33回目の集いでは体も魂も素晴らしい糧で満たされました。遠くから近くから来られた日本人の先生方から力と励ましが与えられるメッセージを聞きながら信仰が強められました。またプロの音楽家の兄弟姉妹による素晴らしい演奏を聞いたり、彼らの指導で賛美したりした感動が深く心に刻み込まれました。ヘンデルのハレルヤとともに神様にささげたときに「これこそ天国に入る前の小さな小さな前味ではないか」と思いました。もう一つこの集いで与えられた大きな喜びは、複数の参加者が自分の人生のFelsengrund(土台)をイエスキリストに据えることができたことです。こうして本当に恵まれた集いに出席ができたことを神様に、また集いのためにお骨折りされた兄弟姉妹に心から感謝いたします。

Die Japanische Europa-Konferenz 2016 ist nun schon Vergangenheit. Im Rückblick kann ich nur sagen: "Ich bin so dankbar, dass ich auch dabei sein konnte". Ein Grund für meine Dankbarkeit war, dass ich den Versammlungsort kannte und dass die Reise nicht so weit war.

Ich habe mich auch besonders gefreut, dass die Konferenz im Haus Felsengrund stattfand. Dieses Haus wurde nämlich von Dr. Wasserzug und seiner Frau gegründet. Sie waren auch die Gründer der Bibelschule Beatenberg in der Schweiz, an der ich vor vielen Jahren die Bibel studieren durfte.



Gertrud und Saturnin Wasserzug

Es war dort in der Bibelschule Beatenberg, als Gott mir klar machte, dass ich Seine Missionarin werden sollte. Etwas später gab er mir auch noch die Gewissheit, dass ich in Japan Gottes Liebe weitergeben sollte.

Ich freute mich sehr, als ich an der Wand des Lesezimmers im Haus Felsengrund die Portraits dieser beiden hochgeschätzten Lehrer sah. Mein Herz wurde mit Dank erfüllt in der Erinnerung an das grosse Werk, das sie erfüllt haben.

Und nun, fast 60 Jahre später, sass ich hier im gleichen Haus Felsengrund und sang mit ca. 280 Japanern japanische Loblieder für Jesus! Das hätte ich mir damals auch im Traum nicht vorstellen können.

Weiter oben schrieb ich von "einem Grund" für meine Dankbarkeit. Aber es gab noch mehr Gründe: in dieser 33. Europa-Konferenz durfte ich auch reiche Nahrung für Leib und Seele erhalten. Von nah und fern waren Gottes Boten gekommen, die uns mit vielen Botschaften im Glauben stärkten und ermutigten.

Da unter den Konferenzteilnehmern auch viele Profimusiker waren, wurden unsere Herzen auch berührt von wunderbarer Musik. Als wir gemeinsam das Halleluja von Händel sangen, dachte ich: "Das ist ein kleiner Vorgeschmack vom Himmel!"

Die schönste Freude kam am Schluss der Konferenz, als wir erfuhren, dass ein Teilnehmer (vielleicht waren es sogar mehrere?) dort Jesus, den "Felsengrund" (das Fundament) für sein Leben gefunden hat.

Deshalb möchte ich noch einmal Gott für diese Konferenz "danke" sagen - aber auch allen Brüdern und Schwestern, die mit bewundernswertem Einsatz zum guten Gelingen beigetragen haben.

人との交わりって実はいいものだ

桑原昭夫

イスタンブール日本語集會

今回、4回目の参加でした。3年前のパリの回で、チェコの方と知り合い、彼らが主催される去年の回までを参加のひと区切りと考えていましたが、今年も参加してしまい、来年も、とってしまいました。なぜ？ 人と接するのが苦手な私が、人との交わりっていいものだ、と考えが変わり始めたのが、ちょうど集

いに参加し始めた頃でした。トルコに住んで居りますが、日本に住んでいた時のような、自分は引いて周囲の人に会話を譲るといふ逃げ道を、周りに日本人が少ないゆえに使えなかった事が、大きかったと思います。自分が自然と会話に入り込んでいました。さらには、ヨーロッパのつどいでは、日本国内よりも、会話へのハードルが低く、助かりました。でもまだ人見知りの性質は残っており、それが少しばかり影響したのか、疲れで胃をこわし、土曜の午後のプログラムは失礼して、部屋で寝込みました。ご愛敬ですね。

神様の憐れみと御業

今村泰典

スイス日本語福音キリスト教会

2006年のスイス日本語福音キリスト教会（JEG）の主催からちょうど10年の歳月が経って、今年は再び私達JEGの主催でしたので、ひと際この集いに私達はエネルギーを注ぎ込みました。今回は今までとは少し違って、外部から特別講師を2名招聘しました。その一人がハーベスト・タイム・ミニストリーズの中川健一牧師で、もう一人がユースの為に招聘されたKGK（キリスト者学生会）総主事の大嶋重徳牧師です。

33回催されたヨーロッパ・キリスト者の集いに敢えて日本から講師を招聘することに異議を唱えられた方もいたとは思いますが、参加されたほとんどの方はこのお二人を招聘して良かったと思われたのではないのでしょうか。矢吹博牧師、内村伸之牧師、安藤廣之牧師、川井勝太郎牧師そして主催教会のマイヤー・マルティン牧師のメッセージはそれぞれとても心に残りました。私自身は直接は聴く機会

がなかったのですが英語を話す参加者に焦点を絞ってメッセージされた岡田大輔牧師の働きもとても貴重な働きをされたと聞いています。



今年は「み国を待ち望む」というテーマでしたが、まずプレ大会では中川牧師により3つのテーマ「私たちはどこから来たのか？」「私たちは何のために生きているのか？」「私たちはどこへ行くこうしているのか？」について聖書から語られ、私自身今まで読んだこと、聞いたことを再確認し、また当然知らなかったこともそこに加えられてしっかりと心に刻まれました。

また本大会では中川牧師が予め用意された「千年王国の歴史の変遷」という少冊子を頂きました。そこで「千年王国とキリストの再臨」に関しては神学上「千年期前再臨説」、「無千年王国説」、「千年後再臨説」の3つの説が

あり、それぞれの説がどういふ神学的見地からその様な説になったのか説明して頂き、また師ご自身は第1番目の説を取っていらっしゃる事を話されました。いつも師の話を聴いていて思うのですが、決して想像で語っているのではなく、よくここまで調べることができたと感心し、常に絶対的な根拠の上に立ってお話をされていることに感服しました。

大嶋重徳牧師のメッセージは私は一度だけユースのグループで講演されたのを聴きに行きましたが、KGK総主事の地位に就かれるだけあって、ユース、若者を導く牧者としてはプロ中のプロという印象を受けました。教会に通っているクリスチャンでさえ性の乱れや混乱が巷に溢れている昨今、いかに聖書が語る性を若者に伝えるか、そしてそれを素晴らしいと思ひ、共感を持ち、これから聖書に則って歩もうとするように導くか、これはとても大きな課題です。同じテーマで、言っている事は正しくても若者に対して上から目線で、頭ごなしに話をしてしまうとユースから大反感を買ってしまうものですが、大嶋牧師は上から目線ではなく、決して裁かないという姿勢を貫き、若者の中に入って行き、共に悩み共に涙する姿勢に若者は感銘を受け、皆熱心にメッセージを聴いていたと思います。

また賛美の夕べでは「み国を待ち望む」というテーマに最も相応しいヘンデルのメサイヤからの抜粋が主に演奏されました。ソリスト、合唱の方々すべて神様に向かって賛美されている姿はとても美しかったし、私が個人的に特に心を打たれたのは10年近く前に脳溢血で倒れられ、生死をさまよわれて、再起不能になるかもと疑われていたピアニストの斎藤のぞみ姉が復帰され、今回見事にメサイヤを指揮されたことです。これこそ神様の憐れみと御業でなくて、何でしょうか。ハレルヤ！！





天国の前味、前庭かな
フーヴェ久栄
北ドイツJCF

今年はプレ大会のメッセンジャーが中川健一先生で、ドイツ語同時通訳があると知って、主人と二人で7月27日水曜日から黒い森のZavelsteinに向かいました。期待通りの明解さで、聖書創世記1章から黙示録22章の解釈を、1・私は何処から来たか？ 2・私は何故生きてるのか？ 3・私は何処へ行こうとしてるのか？ 共に楽しく学べましたので感謝です。

私達は普段、ドイツ・ルーテル国教会に通っているのですが、今まで「携拳」について説教を聞いたことがありませんでした。共にこの希望を持つ事が出来る事に感謝です。



丁度この集いが始まる直前にフランスの小都市で、イスラム過激派にカトリック司祭が殺された事件があったので、なにか不安な気持ちがありました。しかし、昨年末から急激に変化する中東、ヨーロッパの情勢も、全てが神様の御手の中で起こる事だという事をこの講演で再確認でき、スッキリした事も感謝です。親しい友との再会を喜びつつ、自家製焼き立てパンや新鮮野菜サラダを頂きながら、「これが天国の前味、前庭かなあ。」と味わいました。まさに『み国を待ち望む』です。

帰宅して、ドイツ語と英語の講演翻訳書類の膨大さを見て、協力なされた皆様の勤勉さとご苦労に言い尽くしえない感謝と感動いたしました。これを教材に二人で復習できる事もこれまた感謝です。スイス日本語福音教会の皆様、ありがとうございました。

Eine Vorfreude auf das nächste Treffen
Achim Huwe
Nord-Deutsche JCF

Rückblickend auf das 33. Euro-Japan. Christen-Treffen empfinde ich nachwirkende, große Freude und Dankbarkeit:

Die Beschäftigung mit dem Bibelwort ‚Wenn ihr seht, dass dies alles geschieht, so wisst, dass das Reich Gottes nahe ist‘ (Lk. 21, 31) sowie mit der Offenbarung des Johannes haben mich tief berührt; denn erstmalig konnte ich mich mit der Thematik von der Wiederkunft Jesu, der Zeit der Trübsal, dem 1000-jährigen Reich sowie der Auferstehung der Toten auseinandersetzen. Die vier Vorträge von Rev. Nakagawa sowie jede der darauf abgestimmten, nachfolgenden Predigten sprachen mich an und erweiterten meinen Kenntnisstand.

Dass die entsprechenden Texte in deutscher Sprache jeweils vorab auslagen, hat die nachhaltige Wirkung eines jeden Vortrages ebenso gesteigert wie die simultane Übersetzung. All denen, die im Vorfeld sowie jeweils aktuell bei diesen Übersetzungen mitgewirkt haben, möchte ich auf diesem Wege sehr herzlich danken. Es sind damit Maßstäbe geschaffen worden, von denen ich mir wünschen würde, dass sie auch bei den nächsten Meetings gehalten werden könnten.



Was neben den vielen großartigen Beiträgen, insbesondere auch von Dr. Okada, dem ich gerne noch ein weiteres Mal zuhören möchte, nachwirkt und eine Vorfreude auf das nächste Treffen in Leipzig auslöst, sind natürlich die zahlreichen persönlichen Begegnungen und Gespräche mit den Schwestern und Brüdern im Herrn.

「第33回 ヨーロッパキリスト者の集い」を喜びと感謝を持って振り返っています。『これらの事が起こるのを見たら、神の国は近いと知りなさい。ルカの福音書21:31』及びヨハネの黙示録を通しての学びは私の心を強く動かしました。なぜなら私は初めてイエス様の再臨、患難時代、千年王国及び死者の蘇えりについて学んだからです。

中川牧師の4回の講演と、諸先生方の講演もこれらについての私の知識を拡げてくれました。どの講演も適切なドイツ語訳のテキストが準備されていた上に、同時通訳下さったお蔭で講演の余韻が続きました。これらの準備や各同時通訳に協力された方々にこの場で心からお礼を申し上げます。次回もまたこのような通訳が準備される事、また今回のようにドイツ語小グループが再び作られる可能性がある事を望みます。

素晴らしい講演を思い出しつつ、又岡田先生のメッセージも再度聞きたいと願いつつ主なる兄弟姉妹とのライブツイッヒでの再会や談笑を楽しみに致します。

アヒム・フーヴェ

改めて認識させられた事

脇山 齊

スイス日本語福音キリスト教会



ヨーロッパキリスト者の集いに久しぶりに参加させていただき感謝です。毎回思うことですが、こんなに多くの方が主を求めて集まっていることでちょっとした錯覚に陥ってしまいそうです。なんと沢山のクリスチャンの兄弟姉妹がいるのではないかと、、、。しかしまだまだ日本という国の人々を見た場合ではほんの一握りでしかないという思いが一層強くなりました。

今回もヨーロッパ、東欧在中の牧師、宣教師、そしてはるばる日本から著名なスピーカーの方々から『天国を待ち望む』というテーマでお話していただきました。今を生き、どのように生き、どこへ行こうとしているのかを改めて認識させられました。役員、集い実行委員の皆様、本当にありがとうございました。

毎回素敵なプレゼント

脇山 多恵子

スイス日本語福音キリスト教会

月日の経つのは早いものでスイスで生活するようになってもうすぐ24年。

そして痛みのある病が与えられてから23年になりました。その間数々の病やありとあらゆる苦しみを経験し、身体障害者となり日々激痛の中、肉体的にも精神的にも弱り果て絶望していた時、ある全く動くことのできないベッドに寝たきりの方の『毎日忙しくて時間が足りない。なぜなら一人でも多くの方が救われるために神様に祈り続けているから。』という文章に出会いはって素敵な人生を送っておられるのかととても感動しました。たといこの方のようににはできないとしても私にもお祈りすることならできないのではないか、という希望が生まれさっそく実行しました。

始めてみると一日のうちで神様に心を向けている時間の短さに驚き、いかに自分中心に生きていたかを思い知り深く反省しました。そして神様にすべてをおゆだねして、自分の弱さをさらけ出して祈ることが少しずつできるようになりました。今はまた再び歩く力が与えられ、早朝まだ静かな時間にお散歩しながら、神様との楽しい語らいの時を持ち、世界中の方のことを思いつつお祈りさせていただくことのできる恵みに与かっています。

神様とのおしゃべりは私だけでなく神様も喜んでくださることですし、イエス様を信じ救われた者の特権です。本当であれば近づくことのできないお方を、たった一人で独占できる最高の時を持つことの素晴らしさを知ってしまったら祈らずにはいられま

せん。

神様の視点に立って、主と共に歩んでさえいればどんな試練にあっても感謝できますし、必ず乗り越える力が与えられます。逆にとても耐えれないと思うようなことが起こると『あー、神様はこんなすごい訓練を与えても大丈夫って思ったださっているんだ』と喜べるようになり、そして、そのつどどんな形で解決しくださるのかと神様の最善の時を楽しみに待てるようになりました。

今回集いのためのお祈りを始めてから、ずっと他の国に住んでいる方々にお会いできる時をととても楽しみにしていました。そして久しぶりに集いに参加させていただいて、終始穏やかで心地よい雰囲気の中、主を愛し主に信頼しておられる方々との交わりや学びを通して、幸せで満ち足りた時を送ることができました。



神様は集いに参加する度に毎回素敵なプレゼントを用意して下さいます。それは私がお祈りに導かれて勝手にお祈りさせていただいて、相手の方がそのことを

知らない場合本当に驚くほど自然な形で、その方の方から私の前に現れてくださるのです。それによってその方の現状を知る良き機会となりこれまで以上に深く祈ることができるようにと導かれたり、また新しい出会いを通してお祈りさせていただける方が新たに与えられるたびに、私のような者の祈りを聞いて応えてくださるお方であることを強く感じ、これからもお祈りを続けるように励まして下さいます。これ以上のご褒美はありません。

これからもお祈りがただの習慣にならないように気を引き締め主に心を向け主と共に歩むことができるように祈り続けていきたいと思ひます。

主に委ねるとは

黒田閑恵

プラハ・コビシリ教会

今回のテーマの遠大さ、日ごろ考えていない終末や、その先のみ国についてまとまった文が何も出てこなかったの、目を足元にもどし、29日の内村先生のお父上のお話から、2011年大震災の後、天に召された父のことが思い浮かびました。



病床洗礼を受けた6週間後、大震災の2週間後のことでした。住んでいたのは埼玉県草加市で、直接の大きな被害はなかったものの、毎日数回の余震が続くなか、意識のどれ

だけがこの世にとどまっていたのか、震災ニュースのテレビ画面に、第2次大戦時の東京を重ねて、おそらく混沌としていたとおもわれます。内村先生のお父上のように、間際まで明確な意識で信仰を望まれたのとは違っていました。では、父の信仰は、極端に言えば、まるで誘導尋問みたいに導かれた信仰告白は、神の御前にどうなのだろうか、娘の私の気休めだったのだろうか、ずっと心のどこ

かにありました。父は罪を理解していないと、教会の姉妹が言われたことも、さもありませんと思ったことでした。

にもかかわらず、病床で、教会の手作りの小さなみことばノートを命綱のように手に握って眠っていた父を、神は憐れんでくださったと今はおもいます。

今回の講演で語られたみ国についてのメッセージを、もし父が聞いてもどれだけ理解できたでしょう。私にも知らない、わからないことが山ほどありました。ある講演の後、思いきって中川先生に「歳をとり、聖書の深い意味を解らないまま逝った父は救われたと考えてよいのでしょうか。」とおたずねしてみました。先生は、しばらく考えてから「信仰告白はしましたか。そうであるなら、後のことは主に委ねることで。」という意味のお返事がありました。



難解なことは理解できない、昔なら知る機会もなかったあまたの一般大衆をこそ、神様は救ってあげたいと手を伸べてくださるのですから、ここで主に委ねることの大切さを今更ながらおもいました。いつか父と再会でき、どんな話が聞けるのか楽しみです。私も、み国を待ち望む一人とされることが奇跡のようです。全て感謝しつつ。

共に主に栄光を帰するために

川上寧・真咲

ブリュッセル日本語プロテスタント教会

このたび、初めて「キリスト者の集い」に参加させていただき、恵み多い時間を過ごすことが出来ましたことを、心から神さまに感謝いたします。

美しい自然の中でリフレッシュしながら神さまの御言葉をいただき、また多くの方々との出会いをいただき、子どもたちとの楽しい時間をいただくことが出来ました。

まもなくブリュッセルの教会に遣わされようという、期待と不安の入り混じったこの時に、前へと踏み出す力をこの集いで受けることが出来たことを嬉しく思います。準備段階からご奉仕くださった方々、色々

とお声をかけてくださった方々、本当にありがとうございました。(真咲)

今回、初めてヨーロッパキリスト者の集いに参加させていただきました。ヨーロッパにおいて日本語で信仰が養われている多くの兄弟姉妹にお会いすることができ強く励まされました。また、集会のさまざまな場面において、信仰の励ましと、恵みの分かち合いの時間が持てましたことを感謝いたします。



これから夫婦でベルギーのブリュッセル日本語プロテスタント教会に牧師として遣わされてまいります。共に主に栄光を帰するために、主を仰ぎ見てまいりたいと思います。どうぞこれからも、主にあってよろしく願いいたします。(寧)

第33回 ヨーロッパ・キリスト者の集い

プレ大会：2016年7月27日～28日

本大会：2016年7月28日～31日

開催場所：ザーベルシュタイン
(独シュヴァルツヴァルト)

主催 = スイス日本語福音キリスト教会

"Yes I am Coming soon"
Amen. Come, Lord Jesus

テーマ

「み国を待ち望む」

これらのことが起こり始めたら、からだをまっすぐ立て、顔を上に上げなさい。顔が近づいたのです。- そのように、これらのことが起こるのを見たら、神の国は近いと知りなさい。(ルカ21:28,31)

Seelischen und geistlichen Gewinn

Ansgar Kleiner

Japanische Evangelische Gemeinde Stuttgart

Auf diesem Wege möchte ich mich bei Dir und der ganzen Schweizer Japanischen Gemeinde für die umsichtige und bis ins kleinste Detail liebevoll durchdachte Organisation der diesjährigen 33. Europäisch-Japanischen Christen-Konferenz bedanken.

Die Wahl des Ortes sorgte bereits für eine friedvolle, harmonische und entschleunigte Atmosphäre, der sich niemand entziehen konnte. So war es vom ersten Moment an möglich, sich voll und ganz auf die hoch interessanten Vorträge der Pastoren und Missionare zu konzentrieren.

Besonders hervorheben möchte ich in diesem Zusammenhang, dass es mir als begleitendem Ehepartner und Nicht-Japaner erstmals in vollem Umfang möglich war, an dieser Konferenz vollwertig teilzunehmen. Es waren für mich nicht nur, wie überwiegend zuvor, ein paar Urlaubstage, an denen ich mal nicht, wie im Geschäft dauernd zu reden hatte und mich der körperlichen Erholung hingeben konnte, es war vor allem eine erfrischende Erholung für Geist und Seele.



Natürlich war und ist es nach wie vor eine Konferenz für japanische Christen. Und doch gibt es eben zunehmend gerade bei länger in Europa lebenden Japanern Ehepartner/innen, die des Japanischen nicht oder nur wenig mächtig sind.

Auch bei früheren Tagungen wurde darauf zum Teil schon Rücksicht genommen. Doch zum ersten Mal konnte sich die „nicht japanische Gruppe“ als vollkommen einbezogenes Teil der Gemeinschaft fühlen. Zu allen Predigten gab es hervorragende deutsche oder englische Zusammenfassungen,

精神的そして霊的な収穫

アンスカー・クライナー

シュトゥットガルト日本語キリスト教会

この場をお借りして、スイス日本語福音キリスト教会の皆様へ、用意周到にまた細部に至るまで思いやり、考え抜かれて準備された第33回ヨーロッパ・キリスト者の集いを心から感謝致します。

開催場所の選択に配慮され、誰にも邪魔されない平和で調和し、くつろいだ雰囲気がありました。そのため、

dazu noch Live-Übersetzungen, überdies eine ganz eigene Vortragsreihe mit Pastor Dr. Okada, die bei allen Teilnehmern großen Anklang fand.

Auch die Aufteilung der Kleingruppen war sehr gut, ermöglichten sie doch nahezu jedem in seiner Muttersprache teilzunehmen, was für eine ganz neue und positive Art der Gesprächsführung sorgte. Ich gebe zu, für mich war es bisher meist eher unangenehm, an solchen Runden teilzunehmen, einfach weil es oft am letzten Verständnis haperte, was dann auf Dauer eben sehr anstrengend war. Dieses Mal bin ich erstmals gerne in die Kleingruppe gegangen, die so auch ihren Sinn, Gehörtes zu vertiefen und ganz zu verstehen, für mich in Gänze erfüllte.



Darüber hinaus bin ich natürlich sehr dankbar, dass ich mich auch dieses Jahr wieder bei dem, was mir sehr am Herzen liegt, einbringen durfte, der Verherrlichung Gottes in der musikalischen Gestaltung. Ich danke allen, die über meine sprachlichen Defizite dabei hinweghören, denn ein Mittun ist mir hier überhaupt erst möglich, weil mir meine liebe Frau alle japanischen Texte in römischen Buchstaben vorschreibt. Aber egal, ob ich hier nun jedes Wort textgetreu verstehe, ich singe mit großer Freude mit und genieße jede Note aus vollem Herzen.

Ich würde mich sehr freuen, wenn Eure Anstrengungen, allen Teilnehmer/innen die gleiche umfassende Teilnahme zu ermöglichen, Vorbild für die nächsten Organisationen werden.

Dir und der ganzen Schweizer Japanischen Gemeinde nochmals ganz herzlichen Dank, es waren eindrucksvolle Tage, die eben erst durch Eure umsichtige und herzliche Betreuung und Organisation für jeden zum seelischen und geistlichen Gewinn werden konnten.

最初から牧師さんや宣教師の方々の講演の興味深さ、特に、日本人でない配偶者として初めてこのように大規模な集会に同行した私にとって、すばらしい収穫でした。

そればかりでなく私にとっての集いは、ビジネスを離れ、肉体的な休息をもたらすバカンスに近いものでしたが、今回はこれまでとは異なり、精神的かつ霊的な休養になりました。

もちろん、ヨーロッパ・キリスト者の集いは、依然として日本人クリスチャンのための集いです。しかし、また、今後ますます増えていくであろう、日本語が全く出

来なかったり、ほんの少しか理解出来ない日本人配偶者のものでもありましょ。

以前の”集い”においても、ある部分はすでに配慮されていました。けれども今回初め

て、全く”日本人でないグループ”として、聖徒の交わりの一部に入れたと思いました。

すべての説教には、ドイツ語または英語ですばらしい同時通訳やアウトラインの翻訳が用意されていて、その上、岡田大輔牧師の英語による特別なセッションは参加者すべてに大きな共感を与えました。

スモールグループ分けはとても良く、母国語ないし母国語に近い言語で意見交換や会話を可能にしましたが、なんという新しくポジティブな配慮だったことでしょう。

正直に言うと、私にとって今まで最も嫌だったことは、参加者が円陣に座り、聞き取りにくい小声での通訳に、その内容をたいては少しだけ最後に理解するといった具合で、結局はただとても疲れしました。今回、私は初めてスモールグループに喜んで行き、よく理解し、深く聴け、全く心は満たされました。



また、ことしも私が自分の心を注ぎ込める音楽によって、ともに主を崇めることができたことを感謝します。私の日本語知識の欠如は、わが愛する妻が歌詞にローマ字を付けてくれることによって可能となり、私がそれぞれの言葉を正確に理解していないとしても、大きな喜びと共に賛美し、一つ一つの音を心から楽しむことができました。

皆様のご尽力、すべての参加者が同様に広範囲に関与して可能となった集いが、次回の企画運営のお手本となってくれば、本当に嬉しいです。

スイス日本語福音キリスト教会の皆様、印象深い日々、皆様の用意周到な心からのご奉仕、精神的また霊的にたくさん学ぶことができた企画運営を再度、心から感謝致します。



思わずハレルヤ!

森 功

ノルウェー、ブリーネ祈りの家



集いの後にリヴィエラ海岸とコートダジュールをドライブしようという事で、なんと私達は今回ノルウェーから車で参加しました。そういう幸いなおまけが付いておりましたので、今年は是非ともと言う事で、プレ大会から参加しました。先ず今年も”七夕祭り”のように、兄弟方との再会を喜び合って、こんにちは、元気?そう感謝、ハレルヤだね、、、から始まりました。

中川先生の特別講演始め、先生方の語られるメッセージからは、永遠に変わる事のないみ言葉から、主のご愛と再臨のお約束を再確認させて頂きました。また数々の賛美も思わずハレルヤと叫びたくなる程でした。子供達による賛美は(なぜか毎年なのですが)今年も聞いていて、主への感謝で目頭が熱くなりました。分かち合いでは、今年も新たな方々と知り合いになり、感謝でした。

プログラム構成がいつもよりはゆったりめで、しかも充実感にあふれた感謝な4泊5日を過ごさせて頂きました。スイスの実行委員の皆さま、マイヤー先生ご夫妻、兄弟姉妹がた、大変お世話になり、どうも有難うございました。



主イエスよ、来てください。

ミノドラ・ブータ

ルーマニア・クルージュ

今年、初めてキリスト者の集いに参加させて頂き心から感謝します。ルーマニアからドイツまで車で約17時間かかりましたが、それほど長くは感じませんでした。それは、ドライブ中に神様と親しくできたからです。賛美を歌いながら、いろいろ神様について話しながら、心の準備ができました。いつもこんな集会に行く時は主に期待します。どうぞ、神様私にも何かを話してくださいという願いで心はわくわくします。

「み国を待ち望む」のテーマは素晴らしかったです。特に現代に生きる私たちは、地上の生活で満足し、み国の事を忘れてしまいがちです。2001年に洗礼を受けた時のことを私はよく覚えています。神様を愛して、魂は天を仰ぎ、毎日聖書を読んだり、賛美をしたりしました。イ



エス様ご自身に会いたくて、会いたくて再臨の事についてもよく考えました。起きた時、窓のそばにも行って見ました。もうすぐイエス様は来られるのでしょうかと、。でも、まだ来なかったのです。こういう風に、年月が流れていきましたが、イエス様は来られませんでした。けれども、イエス様を待ち望みながら神様の御心を

を行いたくて働き始めました。忙しい毎日ですが、もう一度考えなければならぬ事があると分かりました。それはイエスさまの再臨の事です。

今回、「集い」において、もう一度、み国を待ち望むという渴望を心のなかに起こして頂いて感謝です。また、もう一度ヨハネの黙示録を読むという願いを頂いて感謝です。素晴らしい交わり

をありがとうございました。神様の祝福がますますみなさまに注がれますように願っています。これからも、み国に入ることの出来る日本人が一人でも多く起こされるよう祈りましょう。神様が一人一人の信仰を強めてくださるように祈っています。

「主イエスよ、来てください。」(黙示録22:20)

御手の業の素晴らしさ

川井勝太郎

ルーマニア・クルージュ

毎年楽しみにしているキリスト者のつどい、今年はスイスの方々の主催で、ドイツのシュトゥットガルト近郊で行われたが、本当にあっという間の3日間でした。それぞれの場所でいろいろな事情がありますが、欧州にある日本語教会・集会が全員ではないにしても一堂に集うことは大変大きな意味を持つことであると思います。

外国に出て生活をしている日本人はあまり群れることがないと感じているのですが、キリストにあって、そのような垣根を超えて、キリスト教超教派で集会が出来る事自体が奇跡のようなことかもしれませぬし、それが30年以上も続いているのですから、まさに主の導き、守りの内に進められている恵みの働きではないかと思えます。

今年はルーマニア人の姉妹3人も参加しました。もちろん私たちの働きを手伝ってくださっている、日本に重荷を



持った姉妹方で、日本語も上手にしゃべります。私と家内も合わせて5人で参加するのに、一台の車で片道1500kmの旅でしたが、大きな事故も故障もなく、守られて、あっという間に過ぎました。実は、出発するまでの1週間、大変忙しくいろいろな事が込み入っていたので、一時は大丈夫だろうかと思わされる時もあったのです。

出発前の週に何とか車の車検を終わらせ、最後に運転免許の更新をするために木曜日に警察署に行きましたら、なんと古い運転免許を取られて、ルーマニア国内のみで運転できる臨時運転許可証という紙切れを頂きました。

ルーマニア以外では運転できないといわれて、大慌て。新しい免許はいつ来るのですかと聞くと1週間は掛かるとの事。距離が長いので水曜日の午前中には出ようと思っていたところだったので、木曜日に免許を頂いても間に合わないと思いました。しかし、係の方が、免許はブカレストで発行されて特別な郵便で来るので、郵便局で到着次第取りに行けば1~2日は早く頂けると手配してくださいました。

結果として、郵便局に電話をして火曜日の朝には新しい免許を手に入れることが出来たので、感謝でした。注文していたカーナビ(これもあって非常に役立ったのですが)も、火曜日の夜に入手することが出来て、本当にぎりぎりですべての必要が与えられたのです。こういうことも主のご配慮の内にあるのでしょうか。





忙しく、あっという間に終わってしまった今回のキリスト者のつどいですが、終末論についての講演も大変考えさせられることが多かったのです。最初

は終末論の歴史の変遷や、色々な説、視点を挙げて説明して行こうかと考えていたのですが、日を追うにつれて、主からの語り掛けで「あなたは何を信じているのか？」ということ強く示されました。

終末論ほど色々な見解が出されている分野はありません。極論的な解釈も含め、これから起こることを聖書がどのように言っているか、私たちは冷静に受け止める以上に、信仰をもって、自分はこうだと信じているものは何だろうかと問われた時に、一般的な前再臨説と携挙・再臨・千年王国と新しい天地の話に落ち着きました。

余談ですが到着して、私の前に講義された中川健一先生が、終末論の歴史の変遷を取り上げておられ、その結論で「一般的に前再臨説が一番聖書的であるといえる」という所に来たので、これは本当に神様の導きだと思いました。最初の草稿で行けば、中川先生とほとんどかぶっていたでしょうし、中川先生が前再臨説を結論をもって来られましたから、丁度私の話が説明になっていった訳です。絶妙な主のご配慮だと思わされます。これには大変驚かされ、集会の内に働かれる御手の業の素晴らしさを讃えたのです。

ルーマニアの姉妹方の手伝いもあって、手打ちうどんを皆さんに少しでも召し上がって頂いたことも楽しい思い出です。材料など充分納得のいくものがそろえられなかったものもありますが、それでも皆さんにおいしいと言ってもらったことは忘れられない思い出です。



最終日の礼拝で、マイヤー先生がメッセージの中で迫害されている（もしくははされていた）兄弟たちの話を少しされた時に、ああ、私のいる東欧では、今から28年

前に迫害されていた兄弟姉妹が教会を進めていたのだと思うと、何か不思議な気持ちになりました。東欧革命で開かれ自由になってから、教会が大成長し、今も信仰の息吹は西欧とは違う何かがあります。ふとルーマニアで集いをすることが出来るなら、革命30周年の2019年ではないだろうか、などと思わされたのですが、格段気にも留めず、自分の胸の内にだけにしまっておくことにしました。

欧州の片隅でイエス様を伝えて24年以上、私も年を取りましたが、まだまだしなければいけないことが山ほどあると思っています。この素晴らしいルーマニアという国を紹介したい、日本を愛して集まって来るルーマニアの若者たちに会って欲しいと思う気持ちはこれからも強くなるのでしょうか。中東からの移民もほとんど寄り付かないルーマニアは（特に私の住むトランシルバニア地方は）大変治安の良い街として、成長しています。

大学生も多く、活気のある美しい街は一度訪れた人が想像以上に良かったと言われます。近年は欧州全域からの直通便も増え、ますます便利になりつつあります。



毎年長い距離を旅行して、随分色々なところで皆さんと集いを楽しんできました。一度ぐらい私のいるこの街で、と思いつつ、遠い、暗い、危ないなどの先入観で何度もつぶされて来た悔しい過去も思い返しなが、今はできてもできなくても、どうでもいいと思えるようになってきました。

何か、自分の思いばかり書いてすみませんが、とにかく主にあって、感謝と喜び、今回のキリスト者のつどいが素晴らしい恵みになって心に残っていることは、まぎれもない事実、欧州の大切な仲間たちといえる人たちと後何度お会いできる機会があるか知る由もございませんが、毎年毎年の機会を、素直に喜べるような、そんな充実した時期になって来たかな、と思わせられる大会でもありました。

スイスの皆さん、ありがとうございました。尽きない感謝とキリストにある愛を込めて、欧州のすべての大切な仲間、祈りを込めてお送りいたします。欧州の端っこ、クルージュナポカの書齋にて

初めてキリスト者の集いに参加して 山内貴裕

ハイデルベルク在住、工藤篤子ワークショップ・ミニストリー

今回初めてキリスト者の集いに参加させていただきました。この集いの存在を紹介くださった嶋本様や工藤様には、心から感謝いたします。ドイツのフライブルクの地に着いてから、現地のプロテスタント教会での礼拝には参加していましたが、ドイツ人ばかりでしたので、ヨーロッパの地で、母国語である日本語でいろいろみなさんと会話できたこと、そして毎日違う牧師先生による熱い説教を聞くことができたのは本当に感謝でした。来年ライブツィヒで行なわれるキリスト者の集いにも参加したいです。最後に、ドイツ語が通じることでよかったです。



それは、イエスの宣教命令

内村伸之

ミラノ賛美教会

ドイツで開催された、第33回ヨーロッパ・キリスト者の集いが祝福のうちに終わりました。このために、オーガナイズの労を担ってくださり「御国を待ち望む」というチャレンジングなテーマを掲げたスイス日本語福音キリスト教会の皆様へ、心からの感謝と敬意を表したく思います。

欧州の教会は、多様な神学的な背景をもつ教職者が共に宣教協力をしています。これまでは、互いの違いに配慮する点から、終末論を正面から取り扱うことが、あまりなかったのです。ですが、今回



「御国を待ち望む」というテーマのもと、5人の在欧メッセンジャーと、日本から特別講師として中川健一牧師をお招きして、大胆かつストレートに終末論が語られたことで、欧州の邦人教会に霊的な覚醒が起きているという手ごたえを感じました。

それぞれの神学的な立場があるとは思いますが、このことを機に「聖書は何と語っているのだろうか。」「イエスの大宣教命令とは何であったのか。」ということが、建德的に論じ合わせ、聖書を深く学ぶ人がさらに起こされていくことを願います。

私は、今回のキリスト者の集いではルカ11:1~4を繙き、次のように御言葉を取り次ぎました。

さて、イエスはある所で祈っておられた。その祈りが終わると、弟子たちのひとりが、イエスに言った。「主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。」ルカ11:1

イエスは弟子たちに「わたしはいつも、父にこのように祈っている。だから、あなたもわたしに合わせて一緒に祈ってごらん。そうしたらあなたにも、祈るということがどういうことなのか、わかるようになる。」と「主の祈り」を教えてくださいました。この祈りの心臓部とも言えるのが「御国を来たらせたまえ」ということばです。

「御国が来る」とは、この地上に神による王国が実現するということです。「私たちが地上を去って御国に入れますように」ということではありません。聖書が記している、私たちの希望とは、肉体の復活であり、新天新地において、神が人とともに住まわれることです。

「主の祈り」とはまさに、「時は満ちた、神の国は近づいた。」(マルコ1章15節)というイエスの宣教の言葉を信じた者たちが祈る、応答の祈りです。

この祈りをわたしたちが日々祈るということは、イエスが始められた福音宣教のわざを継続していくというわたしたちの応答に他なりません。

ですから「御国が来ますように。」という祈り、また「御国を待ち望む」という姿勢は決して受け身の姿勢ではないことを胸に刻みます。聖書という「神様の日時計」を意識しつつ、今が終わりの時であることを覚え、ともに福音を伝えていく私たちとさせていただくことを心から願っています。

私たちが担うべきこと

内村まり子

ミラノ賛美教会

今年のキリスト者の集いは、終わりの時代を生きる私達が、聖書の御言葉によって、時代のしるしに目を留めて見分けることができるように、祈られて開催された大会でした。欧州各地、日本から286人が集まり、礼拝と賛美を捧げ、御言葉を学び、目を覚まさせられる大会となりました。

終末、神の国の到来に関する御言葉が各牧師より語られ、伸之師の担当した講演では、ミラノ、バルセロナ、オランダからの兄弟姉妹が、それぞれ頂いている賜物を捧げて共に伝え、伸之師が牧会を担わせていただいている教会の繋がりを、主が育ててくださっていることを見せいただきました。

私は賛美のオーガナイズの一端を担わせていただき、プレ大会、本大会ともに、賛美の心が与えられた方達と準備を進めてきました。本大会の賛美の夕べでは、イエスキリストが「時は満ちた、神の国は近づいた」(マルコ1:15)と宣教を始められた時から、代々重ねられてき



た"神の国を待ち望む祈り"に私達も加わり、イエスこそが天から下られた、神の子であり、私達の罪を贖うために十字架の上で捧げられた神の小羊であること。死より蘇られ昇天されたお方、私達の救い主、そして王の王、主の主であり、神の国の王として再び来られる方であることを宣言し、今を生きる私達が、御国の到来を信じて待ち望む賛美を神様へ捧げました。

18世紀にヘンデルが神の導きにより与えられたオラトリオ「メサイア」から、アリアやハレルヤコーラス、讃美歌、「永遠の神の都」(Stephen Adams作曲)等を用い、聖歌隊と楽器奏者が仕え、会衆とともに賛美を捧げる時となりました。このために多くの時間と労を捧げられた方達に、心から感謝いたします。

私達は、神に賛美を捧げる時に、暗闇の力から解放され勝利します。御言葉により、しるしを見分けて備え、キリストの福音と御国の望みを伝えていくように召されています。私達それぞれが担うべきことを知り、支え合い、共に生かされながら、御国の到来を待ち望みます。「父よ。御名があがめられますように。御国が来ますように。(ルカ11:2)」

信仰がすべてです

工藤篤子

工藤篤子ワークショップ・ミニストリー

この度のキリスト者の集いは、個人的には、今までの集いの中で、学び、賛美奉仕、交わりの全ての面において、最も充実したカンファレンス、リトリートとなりました。今回は、ハーベスト・タイム・ミニストリーズ代表の中川健一牧師、KGK総主事の大嶋重徳牧師が特別講師として招かれました。

中川健牧師には、AKWM設立当初、大きな励ましとご支援をいただきました。また、ハーベスト・タイム・ミニストリーズを通して、これまで、中川師、A.フルクテンバウム師より、ヘブル的視点から聖書を理解するための、貴重な学びを受けてきました。

中川師のプレ大会の3つのテーマであった、「私たちはどこから来たのか?」「私たちは何のために生きているのか?」「私たちはどこへ行こうとしているのか?」は、これまでの学びを再確認し、忘れていたことを思い出し、また多くの新たな気づきを与えていただいた時でした。



本大会では、師が集いのために特別に用意された、「千年王国の歴史の変遷」について講演されました。千年王国とキリストの再臨に関しては、「千年期前再臨説」、「無千年王国説」、「千年後再臨説」と、人によって理解に相違がありますが、中川師は、それらの違いが、どのような神学的見地から来るものかを詳しく説明してくださいました。

歴史の中で変遷、あるいは新しく生まれて来た神学が、その時代の思想・風潮、つまり、Zeitgeist (ツァイトガイスト=時の霊) に少なからず影響を受けて来たものであることが分かってきました。それゆえ、神学云々を議論する前に、日々罪を悔い改め、小羊の血潮で洗いきよめられ、聖なる者として御前に出させていただき、神の「知恵と啓示の霊」、「霊を見極める御霊」を求めながら聖書を読み、純粋にみことばに生きる大切さを覚ええました。

大嶋重徳牧師は主にコースのグループで講演されたので、残念ながら私は聞くことができませんでしたが、聖書の語る性について、恋愛、結婚について大胆に明確に語ってくださったとのこと。教会内でさえも、性の乱れ・混乱が生じている今、特に若者たちにとっては大切なメッセージであったと思います。欧州各教会の先生方も、貴重なメッセージを語ってくださいました。

土曜の夜に行われた「賛美の夕べ」では、大会テーマである「み国を待ち望む」をテーマに、ヘンデルの「メサイヤ」を中心にプログラムを組みました。今年は、多くの音楽専門家が参加されたこともあり、数名のヴァイオリン、コントラバス、フルート、ピアノともに、歌のソロ、聖歌隊賛美、会衆賛美を交えて、賛美をささげました。

「メサイヤ」の『ハレルヤ・コーラス』は、これまで原語の英語で賛美してきましたが、今回は日本語で賛美しました。昨年、20世紀初めに中国の雲南省の山村の人々に福音を伝えたジェームス・フレーザー師の伝記DVDで、雲南省リス族のクリスチャンたちがリス語で賛美する『ハレルヤ・コーラス』を聞いて大変感動しました。そこで、私たちも、今年は自分たちの言葉で『ハレルヤ・コーラス』を賛美しましょう、ということになりました。

日本語を解さないドイツ人のご主人たちも聖歌隊に加わっていただきましたが、アルファベットのカナをふり、練習を重ねて備えてくださいました。そして、「主の主！諸王の王！永遠に続けたまわん」と日本語で声を合わせて歌う時、日本人、あるいは日本語を母国語とするクリスチャンの一体感を覚えました。御国に入る時には、日本人、日本語を国語とする者たちが合い集い、日本語で主を賛美させていただくこととなります（黙示録7:9~11参照）。その光景を垣間見させていただいた、格別な感動を覚えた賛美でした。



さて、『ハレルヤ・コーラス』は、キリストが統治される「千年王国」を歌う賛美ですが、プログラムの最後に賛美した、『永遠の神の都』(The Holy City)では、歓喜の輪がさらに広がりました。私たちがキリストと共に統治する「千年王国」は素晴らしいところです。しかし、千年という年月の最後にサタンが解き放たれ、このサタンがキリストによって永遠に滅ぼされて後に天から下って来る「聖なる都エルサレム」は、もう時間に制限されることのない、完全な『永遠の神の都』です。

最終ゴールである『永遠の神の都』を待ち望む私たちに必要なものは、キリストから目を離さないこと、忍耐をもって、苦しみを恐れないで走り続けること。ヘブル人への手紙のみことばが走馬灯のように脳裏を行き来し、大きな悩みの時に信仰の友が送ってくれた、約束のものを待ち望む私たちに必要なのは、“Geduld ist alles”(信仰がすべてです)という三語を、再び心に刻み付けた、忘れぬ賛美の時となりました。

感謝、感謝でいっぱいです

マイヤー・マルチン

スイス日本語福音キリスト教会

スイス日本語福音キリスト教会が第33回のキリスト者の集いの主催教会として決まったあの瞬間から、スイスの山ほどある準備作業が始まりました。正直、苦労しました。本当に大変な時期もありました。特に、実行委員会の責任者たちは、どうしたらよいか分からない時もしばしばありました。あと出来ることは、祈ることしか残らないな、と思ったときもありました。始まる前から、「ああ、これでもう終わってしまえば良いのに…」と思ったこともありました。



でも、始まったら、まるで夢のように、素晴らしい交わり、素晴らしい兄弟姉妹、素晴らしい天気、素晴らしい講演者、今回は、特に素晴らしいユースのグループ、素晴らしくておいしい食事、素晴らしい賛美の夕べ、…天国だけが今回の”集い”よりもっと遥かに素晴らしいだろう、と思ったときもありました。

賛美の夕べのプログラム、ヘンデルのメサイア大合唱の時には、黙示録7章にあるように、「あらゆる国民のうちから大勢の群集がみ座と子羊の前に立って、大声で叫んで」主に栄光を与えることの聖句を思い出しました。感謝、感謝でいっぱいです。これからも、主の再臨を待ち望みつつ、確かな信仰と希望を持って、奉仕に励みたいと思います。

朝のデボーションを企画を担当して

集い実行副委員長 原憲二

スイス日本語福音キリスト教会

主催者の一員として、スイス教会の兄弟姉妹と、さらにはヨーロッパを中心とした各国の教会、集会の兄弟姉妹と共に主のために心合わせて奉仕できましたことは最高の喜びでした。

私は本大会のいろいろな企画、しおり作成を担当する中で、特に「朝のデボーション」の企画についての思い入れを、振り返って皆様にお分かちしたいと思います。

本大会では中川先生をはじめ、講演してくださった各先生方を通して、神様は計り知れない壮大なご計画をもって、私たち人類を恵みの中にいれてくださっていることを学びました。それは私にとっても、どこから来て、どこへ行くのか、今どこに立っているのかを確認することができただけでなく、これまでの私の狭い福音解釈のスケールを、将来にわたって大きく広げてくれるものでした。

特に、「御国を待ち望む」とは、私たちを愛してくださっているイエス様に会うことこそ最高の喜びであり、目的であるということ。また、イエス様の最初の到来と復活とともに、御国は部分的に私たちの只中に始まっているということ。そして、私たちはこの世において「御国を来たらせたまえ」と祈りながら、イエス様と共に御国建設の働き人に加えられているということが心に残りました。

私たちが現在立っている、御国を待ち望む歩みは、イエス様が共にいてくださいますから力強い反面、戦いが伴います。マイヤー先生は、はっきり迫害とわかる攻撃よりも、平和そうに見える私たちの日常にある、「まどわし」のほうが危険といわれました。確かにそうだと思います。私たちは膨大な情報の嵐のなかに毎日さらされています。



朝起床と同時にスマートフォンは私を神様から目をそらそうとします。神様から引き離そうとするサタンに立ち向かって、私たちはどうしたら良いのか。この点について先生方が強調されていたことは「みことば」を通してしっかり（感情によらず）神様に繋がるということでした。

私たち主催者として、この神様に繋がるための実践として企画したのが朝のデボーションでした。危機と言われるこの時代にあってますます信徒一人ひとりが個人的に神様と密接に繋がる必要性を感じたからです。担当者としては、「朝のデボーション」は自由参加としたものの、講演プログラムと並行して両輪をなす重要なプログラムとして位置付けました。折にかなってデボーション冊子「みことばの光」を編集されている矢吹博先生を私たちの教会に招いて、事前にデボーションセミナーをしていただき、準備することもできました。聖書同盟が勧めるデボーションの手順（「みことばの光」の巻末に記されています。しおりにもあえて紙面をさきました）は、信仰の先達が編み出したすばらしいものだと体験を通して感心しています。

私たちは時に、みことばを読んでいるつもりでも、自分勝手な考えへと脱線しがちです。この手順に素直に従って文脈を解釈するとき、隠されていた宝が輝きはじめるように神様のメッセージが個人に迫ってくるのです。そこには神様と個人的に対話する喜び、聖霊の慰めと湧き上がる力を実感できます。朝一番に何をするか、考えてみればこの朝一番の行動が、その日の行動や心構えを左右します。情報の渦の中に飛び込む前によほどの備えがないかぎり、私たちは簡単にその渦に飲み込まれてしまいます。惑わされずに、時代のしるしを見きわめる力は、個人と神様との絆の太さによるのではないのでしょうか。この集いを機会に、これからデボーションをはじめられる方が増えて、ますますその恵みにあずかる兄弟姉妹が起こされるように願っています。



スイスJEG企画 世界遺産とスイス・アルプスを巡る感動の3泊4日

オプションルツアー

2016年7月31日-8月3日に参加して、

スイスJEG企画 世界遺産とスイス・アルプスを巡る感動の3泊4日のオプションルツアー
2016年7月31日-8月3日

参加費 2名又は
3名未満者参加時の一人あたり
870 EURO (30名より)
780 EURO (35名より)
785 EURO (40名より)
シングル参加者参加時 1+100EURO
朝食は、ホテルの朝食付き。夕食2回、観光バス、セザンヌ・ロマンシェ、ホーエンツェルンへの送迎バスも付く。ツアーコーディネーター、日本語ガイド、チップが含まれます。
最低参加人数 30名

7月31日(日)
14:00 ザーベリンシュタイン集合
16:00 「天空の城」ホーエンツェルン城を見学。
20:00 フリードリヒスハッフェンのホテルに宿泊
<http://www.seehotel.de/>

8月1日(月)
9:30 ホテルで朝食後、リンドルプへ。10:00 Lindenbergからツェルンでスイス製、ポーンアン湖の湖岸リゾートホテルへ。
12:30 ツェルンでランチ後、行先は「世界遺産」ルツェン。行先は「世界遺産」ルツェン。行先は「世界遺産」ルツェン。
16:30 サンクト・ガレンへ出発。アッペンツェル東部の観光バスで移動。
www.appenzell.ch/

7月31日(日)
17:30 ホテル別荘、ホテルで夕食。
<http://www.seehotel.de/>

8月2日(火)
8:30 ロープウェイで一気にツェルンに到着。2007年、山でアルプスのバイラムを撮影。
www.sasentibahn.ch/films/rope-way-seehotel-2007.htmlを見学しながら移動。おとぎの町のようなアッペンツェル東部の山頂に到着。
13:30 アッペンツェル東部の山頂、シュトカットガルトへ。
17:30 山頂から「シュトカットガルト」に到着。
8月3日(水)
ホテルでの朝食後、観光バスはマイの湖の案内でルツェン湖へ。

ヨーロッパ・スイス 夏の思い出の参加申込書は、ツアー参加のご希望を記入ください。なお、4月20日以後はキャンセル料がかかりますのでご注意ください。お申し込みいただいた後、貴方の方からご返信の件が来ない場合は、どうか、この一紙に一度の連絡の機会をお見逃しなさいませぬように！

金婚式記念の年に 浜島敏 善通寺バプテスト教会



私たち夫婦は、1995年から96年にかけてロンドンに滞在し、ロンドンJCFで盛永先生のもとで、たくさんの教えと恵みをいただき、ロンドンJCFが母教会であるとさえ考えております。ロンドンが無牧になり、昨年、一昨年は、短期のご奉仕をさせていただきますました。

この「集い」には、96年のドイツムッフの集いがはじめてでしたが、その後、2007年ミラノでの集いの後は、マドリッドを除いてずっと出席させていただいています。今回でちょうど10回となります。私の信仰生活にとって大変重要な集会でした。たくさんの恵みをいただき、たくさんの方々とお交わりを持たせていただきました。そのことを心よりお礼を申し上げます。

今回が最後になるかもしれないと思って出席しました。最後になるかも知れないと言いますのは、ロンドンJCFも新任の牧師が決まり、私のロンドンでのお手伝いはもうこれで十分だろうと考えたことが一つですが、もう一つ、家内知恵子が2年半ほど前から、認知症の治療を受けており、今年に入り、物忘れが進み、緊張すると大変疲れるようになりました。

これ以上10数時間をかけてのヨーロッパへの旅は困難ではないかと考えるからです。今年も参加をどうしようかと考えましたが、今年が私たちの結婚50周年記念の年でもありますので、今回無理をしてでも、参加して皆さんとお会いしたいと思ったからです。またスイスツアーで思い出の時を持ちたかったからです。

私にとって、知恵子は、本当に最高の助け手でありましたし、文字通り「良い方の半分」でした。二人を合わせ、こうして50年という歳月を共に歩ませていただいた神さまに感謝します。皆様に一つお願いしたいのは、彼女のためにお祈りをして欲しいことです。認知症というのは、「自己喪失の恐れ」だと言われますが、その不安と心配は大きいものです。前に何でもなかったことが、目に見えて出来なくなることが自分でも分かり、将来どうなるの



センチス (2501m)の絶壁、ホテルからの眺望

か、自分が自分でなくなってしまうのではないかと焦燥感です。みなさんのお祈りで、平安が与えられるようお祈りください。祈りを結集していただき、神さまの小指の先でも動かしていただければ、彼女はいやされると確信しています。力ある義人の祈りを信じています(ヤコブ5:15)。

皆様、長い間ありがとうございました。マイヤー先生、松林さん、またスイスの皆様、本当にありがとうございました。ツアーでのおにぎりの差し入れ、松林さんの追っかけ、最後の夜までのお見送り、本当に感謝でした。センチス山の斜面の大きなスイス国旗、最後を飾る花火大会は、金婚式前の思い出になりました。

ありがとうございます。集いのますますの発展を祈っています。皆さんの祈りによっていやされ、元気になり、来年もライブチャットでお会いできるようになれば、この上ない喜びです。期待しつつ、皆さんの祈りを心からお祈り申し上げます。See you again!



チーズフォンデュを頂く、アッペンツェルで

「クリスチャン」の醍醐味

稲美節子
ロンドンJCF

「キリスト者の集い」そして「オプショナルツアー」のために心血を注いで下さいましたことをスイス日本語福音キリスト教会の皆様にご心より感謝申し上げます。私たちはすっかり甘えてしまって、上げ膳、据え膳、行く先々での歓迎に気持ちが緩んでしまいました。ガイドの花子さんの後を付いて行くだけで面白いことが次々と、、、2,501mのセンチス山頂で朝食を頂きながら六か国を見たり、牛の後をノロノロ走ったり、ヨーロッパの不穏な出来事等どこ吹く風と、呑気で楽しい旅を満喫しました。

天使が私たちの前後左右を護ってくれたおかげでサタンも手を出せず歯ざしりしていたことと思います。道中では心が通う仲間と一緒に食事をしたり、お喋りしたり、「クリスチャン」の醍醐味を思い切り味わいました。それを見ていた花子さんは「こんなに心の優しい、明るいグループは初めてです。ハプニングにも皆さんが笑顔でいてくれて、嬉しいです。」と感心していました。豪華なホテルとご馳走の4日間は4週間にも思える程贅沢なツアーでした。



「おむすび」を作ってくれた節子さん、有難うございます。松林さんご夫妻と一緒にディナーができて嬉しかったです（きっと疲れておられたことと、でも頼れるお兄さんに会ったようで安心しました。）。JTBのご配慮で「貴重な水」を頂き感謝しています。前日は水を探してスーパーやホテルのバーに行きましたので、とても助かりました。バスの中で集合写真を見たのは私たちが最初でしょうね。嬉しいご配慮でした。こんなに沢山の予定外のサービスに私たちは十分なお礼を言うことができませんでした。それを申し訳なく、とても残念に思っています。

私はビデオを見ながらツアーの楽しみを何度も味わっています。記録ができましたら皆さんにもその楽しみをお分けしたいと思います。最後の日、お別れした後は寂しくて胸が苦しくなりました。またお目にかかる日が来るように願っています。ツアーのために奉仕して下さいました方々に心からのお礼を申し上げます。

銀婚式記念のスイス旅行

市村和夫・文子
久留米キリスト教会

この度は、「ヨーロッパキリスト者の集い」と、スイスへの「オプショナルツアー」での、スイス日本語福音キリスト教会の兄弟姉妹の献身的なお働きに、心からの敬意と感謝を申し上げます。二年間に渡るご準備をなさったとのこと、誠に疲れ様でございました。

主がスイスのみなさまのご家庭、お仕事、お働きの上に、溢れるばかりの祝福がごさいますように、心からお祈り申し上げます。



集いでは、学びとともに、多くの兄弟姉妹との出会いと交わりが与えられ、たくさんの恵みをいただきました。毎朝、若い方々とラジオ体操のプログラム

をご一緒できましたことも楽しい思い出となりました。実は、日本で私たちは、毎朝、近くの公園でプレーウォークをした後、ラジオ体操をして、その後、お仲間とお茶をしながら福音を伝えることができるようにと祈っています。また、スイスへのツアーでは、ご心配をおかけいただきましたが、本当に心に残る素晴らしい景色を満喫できたことと共に、私共の結婚25周年の記念となりましたこと、うれしく存じております。

スイスの建国記念日と重なり、夜には、部屋から花火も見られて、感動の時間をいただきました。何よりもスイス教会の兄弟姉妹の心温まるご接待と、お心配りに感動と感謝の気持ちでいっぱいでございます。



どうか、スイス日本語福音キリスト教会のみなさまのご健康が支えられて、スイスの地での安全と平安を心からお祈り申し上げます。感謝を込めて。

東スイス最高峰、アッペンツェルに聳えるセンチス連邦

忘れ得ぬ旅の思い出

池谷孝雄

日本福音ルーテル東京池袋教会

第33回集いの役員の皆様、どのような賛辞の言葉と感謝の思いをあらわしたらよいでしょうか。参加された280余名のお一人お一人と共に、この素晴らしい、決して忘れる事がないであろう恵みと幸ち多き楽しい集い、全プログラムを通じて良き配慮の行き届いた皆様の並々ならぬご尽力があったことは容易に理解できました。



ボーデン湖に浮かぶ島、リンダウ（独）

そして、豊かな霊的恵みを学びと交わりを頂きました後に、今年も特段に嬉しいおまけとも言うべきオプショナルツ

アーを組んで下さり、今夏の集いがスイスの美しい自然と共に一層豊かに彩られましたことも心より感謝申し上げます。特に、申し込み時の送金トラブルから始まり、最後まで綿密に、忍耐、配慮、そして愛を持って接して下さった担当委員様に、心より敬意を表します。

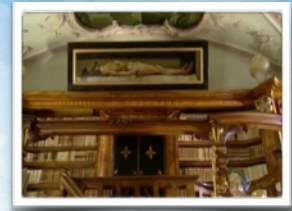
今回のツアーでは、参加人数不足による催行の危機、予期しない出来ごとや、変わり易い山の天気にも一喜



世界遺産サンクトガレン大聖堂前

一憂くださり、マイアー先生共々、最終日のシュツットガルト空港へ行く足までを気にかけてくださいました。全員が満足するツアーと言うものはなかなか無いものです。私は何度も出張などで海外や旅行をしてきた中で、自分も含めて大きなヘマをやり、命さえ落としかけた経験を持っています。出発が2時間遅れた、予定したスケジュールが実施されなかった、もらった水が重かった、ああ、私には忘れ得ぬ旅の楽しい思い出語り草の一つとなっていますので、ご心配の必要は全くありません。

それ以上に、不満を感じたとしても口になさらなかった参加されたお一人お一人の人格、品位、それは間違いなく主にある信仰から出ているものと確信致します。



世界遺産：修道院付属図書館

ツアー出発の前には、あの美しいザーベルシュタインの村での学びと交わりに浴し、難しいテーマにも講師陣の準備された判り易い福音的解釈によって、霊の祝福に大いに満たされていたことは、素晴らしいスイスツアーに行く為の心の備えであったかもしれません。

個人的には、到着日が一日遅れることを事前にお伝えしてなかった為、多くの方にご心配おかけしました。マイヤー先生も、松林さんも、ホテルの支配人は私の名前をイケヤーと覚えてしまい、嫌な顔一つせず、空港から乗り継いで疲れて夜一人たどり着いた私を笑顔で迎えてくれました。なんと素晴らしい体験でしょうか。数々の貴重な学びや交わりにも増して大切に大事な体験でした。スイス日本語福音キリスト教会のみなさん、本当に心よりありがとうございました。一言感謝と御礼の言葉を感想に代えさせて頂きました。

スイスの建国記念日に遭遇

並木久雄・貴美子
草加福音自由教会



主の御名を賛美申し上げます。

「第33回ヨーロッパキリスト者の集い」およびツアーに日本から参加させて頂き感謝申し上げます。2年の歳月を掛けて準備された実行委員の皆様本当にご苦労様でした。準備された「キリスト者の集い」とオプショナルツアーは綿密に計画されており、実に感動を覚えるものでした。「集い」においては、在欧教職者のメッセージを聞くことが出来、感謝致します。また、「ツアー」においては、スイスの建国記念日に遭遇し、建国を祝う仕方の違いを垣間見ることが出来ました。そして何よりもスイスの美しい風景を堪能出来たことに感謝致します。

これからも「ヨーロッパキリスト者の集い」が続くようお祈り致します。本当に、ご苦労様でした



リンダウ Lindau(D)

スイスでたべた
おにぎりの味

鈴木三枝子
オランダ南部キリスト教会



この度はスイス日本語福音キリスト教会の皆さまに大変お世話になりました。キリスト者の集いの後でお疲れのところ、ツアーのご心配までしてくださって感謝します。



おにぎりでお出迎え

ザンクトガレンで節子さんと脇山姉ご夫妻がバスの窓から見えたときは、びっくりするやら嬉しいやら。お握り美味しかったです。ありがとうございました。ご一緒した方々とも更に個人的な交わりができて、本当に楽しい旅でした。

今回の集いはプログラムがゆったりしていてとても良かったと思います。み言葉に学びつつ、ゆったりした時間の中で主との交わりを持つリトリートという面が活かされていたと思います。

集い、ツアーのために労して下さった皆様様に感謝しつつ、主の豊かな祝福をお祈り申し上げます。

サプライズがありますよ！

谷道まや
日本基督教団阿佐ヶ谷教会

一日目、お城見学がキャンセルになりましたが、私は特に問題ではありませんでした。ガイドさんは、とても気もちのよいお話の仕方で、過不足のない説明が非常によかったです。

あのツアーの企画は素晴らしかったです。特に、船で国境を越えるというアイデアがドラマティックでした。それと、たまたま建国記念日に当たっていて、St.Gallenの町が国旗で飾られていたこと。(まるで私ど

もを歓迎するかのように) お山にも巨大な国旗が飾られていたこと。とても印象深い光景を目におさめることができました。

一番うれしかったのは、セントリス山のホテルに着く途中の道で、松林さんが手を振って待っていてくださったこと。



スイス国旗でお出迎え、トイフェンにて

もう一つ、St.Gallenに着いたとき、クスター・節子さんが、路上で我々におにぎりを配ってくださったこと。船の中で私が「何か軽食を注文しようかなあ〜」と言ったら、ヒアット・明子さんが「上陸したら何かUeberraschungがありますよ！」と私の耳にささやいてくださった意味がここで氷解！また、2日の夕食に、松林さんご夫妻が飛び入り参加して下さったこと。スイスの役員の方々のホスピタリティあふれるお心遣いにどんなに心がなごんだかわかりません。楽しい旅行を企画してくださり、本当にありがとうございました

魅せられた風景と世界遺産の街

高田睦
芦屋福音教会

この度の集い、ツアーでは大変お世話になり、心より御礼申し上げます。ザーベルシュタインの緑豊かな美しい自然の中での学びや交り、賛美のひと時、美味しいパンやチーズ、、、。霊肉共に満たされた4日間でした。神様の素晴らしい恵みに感謝します。

ツアーでは、スイスの牧歌的な田園風景に魅せられ、世界遺産の町に感銘を受けました。ご一緒した皆さんとの楽しい交りも楽しいひと時でした。素敵なツアーを企画して下さい、本当にありがとうございました。

今回の集い、ツアーに労して下さい下さった皆様の暖かいおもてなし、心遣いに心から感謝し、神様の豊かな祝福をお祈りいたします。



Speicher シュパイヒャー アッペンツェル地方の典型的な村

「お・も・て・な・し」

佐々木良子

ケルン・ボン日本語キリスト教会

キリスト者の集いのための準備だけでも計り知れないご苦労があったと思います。にも拘わらず更に続いている心の籠ったオプショナルツアーを企画して下さったことに、一言では語り尽くせない感謝の思いでいっぱいです。心からありがとうございました。

このツアーのご案内を頂いた時、私はまだ日本の教会にお仕えしており、8月という時期は赴任したばかりで、その上私にとっては贅沢なツアーだと思って躊躇していました。しかし役員の方が「夏休みを利用すれば・・・」と仰って頂いたことで思い切ることができ、結果的には思いもよらない多くの恵みをいただくことができ感謝しております。

申し込み当初は単純に久しぶりの旅を楽しもうと思っていました。いよいよツアーが始まり、壮大な美しい自然に触れ天地万物を創造された主を、信仰の友とご一緒に賛美できる恵みに感謝していました。しかし、このツアーは単に旅を楽しむことのみには留まりませんでした。

キリスト者の集いではお交わりをすることができなかった方々と、この4日間でゆっくりと語り合うことができ、それぞれの教会の祈りの課題を共に祈る幸いが与えられました。そして更にこのツアーを企画・協力して下さったマイヤー先生を初め、松林幸二郎兄、スイス日本語福音キ



ホテル・センチスのベランダで、センチス山を背景に

リスト教会の方々の心の籠ったホスピタリティーに触れさせて頂きました。さりげなく様々な場面において「お・も・て・な・し」の日本の精神と共に隣人に「仕える」ことの素晴らしさを味わわせて頂き、心より感謝しております。



私事ですが、こちらに赴任して早々に日本からお客様がお見えになり、そして今秋、来夏にも色々な方がおいでになる予定です。お訪ねくださった方々が「来て良かった」と思って頂けるようなホスト役を務めさせて頂きたいと願っていましたが、私自身が先ず「心を尽くし、精神を

尽くし、思いを尽くして」のおもてなしを受けたことは、素晴らしい体験学習となりました。今回頂いた沢山の宝物を独り占めすることなく、喜んで分け与える者とさせて頂きたいと願っています。今、「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」（ルカ6:31）との御言葉が私の頭をよぎっています・・・。

このツアーに関わってくださった全ての方々の上に、豊かな祝福がありますように心からお祈り申し上げます。

ザンクトガレンの修道院を見て、バロック建築の巧みさに感動しておりましたが、アルプス山脈Säntisを見た時、この景色は創造主なる神にしかお出来にならないと思いました。主の臨在溢れる日々を過ごせ感謝しております。

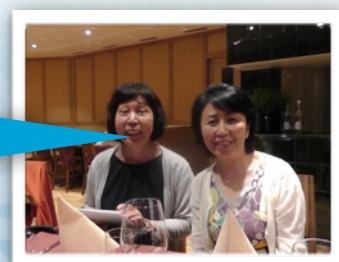
高見智佳子

(ウィーン在住、工藤鶏子ワーシップ・ミニストリー)

その節はバスの遅れの為、出だしからご心配をおかけすることになり、予定変更となってしまいました。皆様が文句もおっしゃらず、気持ちよくツアーを楽しんで下さったことがとても有り難く、感謝の気持ちでいっぱいでした。

本当に皆様、いつも笑顔で素晴らしいグループでした。

日本語ガイド・通訳協会会員、ルドルフ花子 スイス・パーゼル在住



第33回”集い”証集の編纂を終えて

実行委員長 松林幸二郎

スイス日本語福音キリスト教会

第33回の集いの主催を10年ぶりにスイスJEGが引き受けるにあたり、“集い”に15年連続参加という恵みに与かってきた私の心には、今まで温めてきたいくつかの“夢”あるいは“ビジョン”が実現可能かも知れないと思われました。

しかし一個人のビジョンを、そのまま何のプロセスも経ず自動的に、教会の、そして様々な重責を担うであろう実行委員会の共通のビジョンにすることはできません。それゆえ、長い祈りと思考、神様の導きと準備の時間、実行委員会での検討が必要でした。また、今回は各部門が連携を大切にしながら、責任をもち、独立して企画立案と準備作業を行うようにしました。

私たちは、これまでの集いにおいて、パウロやペテロの書簡を学び、イエス様のたとえ話に耳を傾け、大きな祝福を受けてきました。しかし、キリスト者の最大の希望である、イエス様の“再臨”や、“み国”すなわち終末論が深く関わる“千年王国”といったテーマは、ある種のおそれからか避けてきたように思います。また、イエス様の再臨について書かれたキリストご自身の書簡でもある“黙示録”を難解であるが故、あるいは論争があるという理由からか、歴代の“集い”で取り上げられることはありませんでした。

“み国を待ち望む”という神様の人類救済計画のプロセスを取り上げようとする壮大なテーマは、このように実行委員会の真摯な祈りのなかから生まれてきたものです。この重大なテーマに、ハーベスト・タイム・ミニストリーズ代表・中川健一牧師が最も相応しい講師として決定したものの、あの超多忙の中川師がこの時期ヨーロッパにお越しいただける可能性は、限りなくゼロに近いと考えていました。しかし、神様は中川牧師の心を動かして、不可能を可能にくださったのです！

第33回のキリスト者の集いは、スイスJEGが主催した10年前の経験を踏まえて、討議を重ね、イエス様の愛を礎に、次のような“集い”にしたいと実行委員会は方針を立てました。



1、“聖書の学び”の場であると共に“リトリート”の場とするために、余裕のあるプログラムの企画を立てる。講演の数を少なめに設定し、朝食前は自由参加のデボーション、夕食後はフリーにして、参加者に自由な交わりや絆を深めていただき、霊的身体的な休息の時をとっていただく。

2、奉仕者を広く募集し、賛美は各教会で独自に企画し、“賛美チーム”には、土曜日夜の“讚美の夕べ”にてご奉仕をしていただく。賛美奉仕者にも交わりの時間を豊かに取っていただき、本大会への積極的参加を促す。

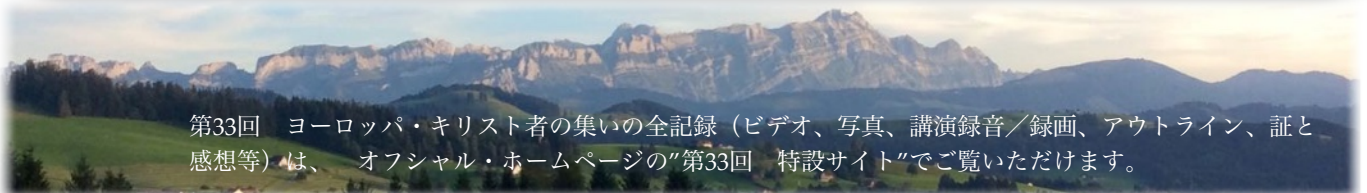
3、近年とみに減少傾向にある子供／若者の参加を促進するため、参加費を低額に設定した上、日本からKKG総主事の大嶋重徳、裕香師を招致し、プログラムを充実させ、経済的支援を行うことにしました。その結果、教会の将来を担う若者たちの参加者は飛躍的に増加し、34名（スタッフを入れると47名）となり、本館の2階にユースフロアを設置するに到りました。

同様に、著しく減少したCSへの子供の参加者も13名とずいぶん増え、若者や子供の歓声が“集い”に戻ってまいりました。

4、また、これも近年増加傾向にある国際結婚カップルの日本語を母国語としない参加者のために、プログラムの英語版作成や同時通訳、アウトラインの翻訳、外国語によるスモールグループの形成など積極的なアプローチによって疎外感を与えず、神の家族の一員として一体感が持てるようにするという方策を講じました。

集い終了後、いただいた沢山のフィードバックから、この試みも神様が大いに祝福してくださったと感じました。そして、私たちも、この集いを通じて神様に栄光をお返しできたことを心から感謝しています。

長く“集い”の開催に尽力されたM兄が指摘された“集い”の持つ二つの文化、“主催教会の燃え尽き文化”と“講師の手弁当文化”に、今回、スイスJEGは風穴をあける役割を与えられたようです。この試みが、今後のキリスト者の集いに継承されることを私は願って止みません。



第33回 ヨーロッパ・キリスト者の集いの全記録（ビデオ、写真、講演録音／録画、アウトライン、証と感想等）は、[オフシャル・ホームページの“第33回 特設サイト”](#)でご覧いただけます。

